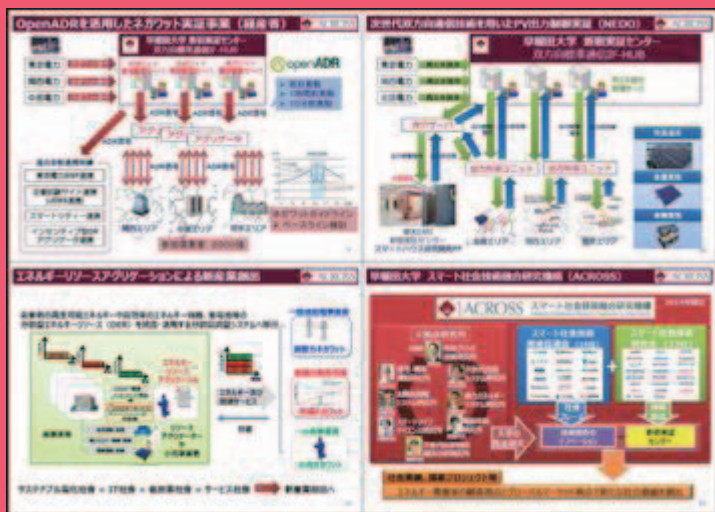


早稲田 EWE 59

電気工学会会報



2018-Mar.

<http://www.ewe.or.jp/>

2018年度通常総会開催通知

早稲田電気工学会
会長 堀越 佳治

拝啓、時下益々ご清栄の段お慶び申し上げます。

さて、標記通常総会を下記の通り開催致しますので、万障お繰り合わせの上、会員お誘い合わせてご出席いただき、EWEの運営・活動などについてご意見を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時 2018年5月11日(金) 18時～19時
2. 場 所 早大西早稲田キャンパス55号館1階 大会議室
3. 議 題 (1) 2017年度事業経過報告および決算
(2) 2018年度事業計画および予算
(3) その他
4. 懇親会 早大西早稲田キャンパス55号館1階 第2会議室
5. 懇親会会費 3,000円

*出席される方は、事務局までご連絡ください。

以上

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学西早稲田キャンパス内
早稲田電気工学会 事務局
電話/FAX：03-3232-9768 (直通)
E-mail：jimukyoku@ewe.or.jp
URL：http://www.ewe.or.jp/

もくじ

○巻頭言「人生100歳時代考」	3
EWE会長 堀越 佳治	
○講演「ICTによるエネルギーリソースアグリゲーションの新時代へ」	5
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 林 泰弘	
○追悼「清水司先生「お別れの会」が執り行われました」	8
○ニュース「伊藤毅生誕100年記念コンサート」のお知らせ	9
○退任に際して「電力系統の運用・制御にめぐり逢えて」	10
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 岩本 伸一	
○寄稿「富永先生の叙勲をお祝いする会」	12
情報通信学科 教授 亀山 渉	
○若手OBの活躍「会話AIメディアの時代」	13
カーネギーメロン大学 研究員 松山 洋一	
○EWEホームカミングデー報告	15
○修士課程修了にあたって	16
電気・情報生命専攻 關 翼人 (村田研究室)	
情報理工・情報通信専攻 伊勢 文貴 (中里研究室)	
電子物理システム学専攻 依田 大輝 (渡邊研究室)	
○地方本部だより	19
東海地方本部／関西地方本部／中国地方本部	
○クラス会だより	23
電気通信学科1947 (昭22) 年卒、電気工学科1962 (昭37) 年卒	
電気通信学科1962 (昭37) 年卒、電気工学科1964 (昭39) 年卒	
電気通信学科1964 (昭39) 年卒、電気通信学科1966 (昭41) 年卒	
電気工学科1971 (昭46) 年卒、電気通信学科1971 (昭46) 年卒	
○学生支援基金報告	
「ETロボコン2017 活動報告とご支援への感謝」	31
「ACM ICPCアジアつくば大会 活動報告とご協力へのお礼」	32
○EWE活性化委員会2017年度活動報告	34
○EWE三月会2017年度活動報告	35
○学生部会報告「研究室対抗ソフトボール大会」	37
○2017年度修士論文一覧	38
○2017年度学部卒業生一覧	49
○2017年度博士号取得者一覧	55
○受賞・褒章	56
○2017年度就職状況	59
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授 小林 正和、岡野 俊行、村田 昇	
情報理工学科／情報理工・情報通信専攻教授 田中 良明、高畑 文雄、山名 早人	
電子物理システム学科／電子物理システム学専攻教授 柳澤 政生	
○2017年度就職先一覧	65
○2017年度評議員委嘱状況	68
○2017年度終身会費納入者、寄付者一覧	70
○逝去者一覧	71
○編集後記	73

巻頭言

人生100歳時代考

早稲田電気工学会会長 堀越 佳治



EWEの活動は若い学生から年配の会員まで極めて幅の広い年齢層の会員によって支えられています。現在のおもな活動は、年一度のホームカミングデーの開催、活性化委員会による学生会員と先輩会員との交流会、学生会員同士のソフトボール大会、三月会による毎月の講演会などがあります。また学生基金を作り、学生会員の活動支援も行っています。このほか会員の方々には理事会や評議会を通してEWEの運営に参画していただき、総会や講演会などにご尽力をいただいております。これらの諸活動を含め、

EWEの活動が全ての年齢層の会員にとって魅力的なものであることを願っています。さらなる改善を図るためEWEに対するご提案ご要望がありましたらぜひ事務局までご連絡ください。

さて多くの会員の方々から活力をいただいているEWEですが、シニア会員の方々はどうかという、活発に活動されている方が少なくない一方で、年齢を気にされて活動を控えておられる方も多いようです。そこでこのたびは標記のようなことを愚考してみました。

《最近“人生100歳”という言葉がしばしば聞かれるようになった。この言葉は年配の方々に勇気づけるかと思いきや、少子高齢化とセットで語られる傾向にあり、そうなる则ちちょっとおかしなことになる。少子化と共に高齢化もマイナスイメージなのである。私自身も今年後期高齢者（誰がこんな失敬な言葉を考えたものやら）の仲間入りすることになるのでこの問題は切実である。やれ社会福祉費が増える、やれ交通事故が増える、と散々である。馬鹿にするな！の一言も言いたくなるではないか。

“人生100歳”というのは早稲田大学の人間としては何も新しい話題ではない。わが大隈重信侯は今から100年以上も前に人生125歳説を提唱している。“70歳をもって人生半ばと考えよ”という教えは何とも元気の出る話ではないか。残念ながら彼は84歳で没したが、高齢になってからの活動にも目覚ましいものがある。まして現代は医学の発展によって健康に歳を重ねる知識が共有されるようになり、元気で積極的な高齢者が増えている。肝心なことはこういう人々に活躍の

場を与えることであろう。そうすれば社会福祉費の増加の悩みは幾分でも減少する。しかしどうしたら元気で長く活躍することが可能であろうか？この問題に対するヒントを得るため、ここでは高齢まで大活躍を続けた大隈侯の生き方を見て、それを可能にする要素を見てみたい。大隈侯についてはEWEの会員の皆さんは私よりもずっと詳しいと思うが個人的な印象を少し述べさせてほしい。

大隈侯は35～40歳当時日本の近代化について確固とした信念を持ち、政権内で頭角を現わしていた。とくに日本の近代化に不可欠なものとして鉄道の建設、貨幣の統一と円の設定、太陽暦への変更など国民生活に直結した分野で大きく貢献した。奔放な人物で政権の中にあってこれらの事業を独断的に遂行していったようである。彼は非常に優秀な人物であり、他人が馬鹿に見えたから人の意見を聞くような努力は無駄だと思っていたらしい。43歳の時、薩長藩閥の政変によって下野し、その間に早稲田大学の前身である東京専門学校の開校、立憲改進黨の結党を行った。独断的な姿勢のせいか53歳の時に立憲改進黨を率いて帝国議会選挙に臨んだが大敗してしまう。この挫折が彼にとって大きな転機となった。人が変わったように人々に語りかける努力をするようになり、その結果61歳の時の選挙では大勝利をおさめ内閣総理大臣に就任した。その後も党首として政治活動を行っていたが、70歳のとき日露戦争勝利後の政府の軍拡路線に反対の立場をとったため、党首の座を追われてしまった。まさにその時が彼の二回目の転機であったと思われる。党首としての最後の演説で、“たとえ諸君が吾輩を党から退けようとも、いかなる権力も吾輩の個人の自由を制限する力は、世界どこにも無いのである”と述べた。ここから始めた自由な活動が大隈侯を成功に導いた。その一つが人生125歳説である。125歳まで生きるとすれば70歳などはまだ青年とばかり、当時、日本で流行り始めていた野球の普及に尽力したり、白瀬中尉の南極探検を支援成功させたりと、70歳を超えて様々なことに挑戦したことはよく知られている。早稲田の野球部をアメリカに送ったのも彼だ。そのあと大隈侯は77歳で二度目の総理大臣に就いている。人生125歳説は大隈侯が海外の医学研究を独自に解釈してこの説に至ったという。大病をせず、運が良ければ125歳まで細胞は分裂を続け、アポトーシスは起こらないということであろうか。》

わが国の100歳以上の人口は1998年に10,000人を突破し、昨年9月15日の統計では68,000人に達していますから増加は急激です。人生125歳説は現実味を帯びてきたのではないのでしょうか！しかし以上述べてきたように大隈侯の成功は単に長生きによってもたらされたわけではありません。もともと非凡な才能に加えて、二つの転機における鮮やかな自己変革が原動力になっていると考えられます。“自分を変える”ことがカギのようです。自己変革は簡単なことではありませんが、“人生100歳”となれば同じ考え方で過ごすのは退屈かもしれません。

とすれば、皆さん！自己変革を成し遂げて“人生100歳”を謳歌しましょう。

講演

ICTによるエネルギーリソースアグリゲーションの新時代へ

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 林 泰弘



今後の分散型エネルギーリソース（太陽光発電、蓄電池、電気自動車、ヒートポンプ給湯機、燃料電池など）のエンドユースでの不可避な拡散化と情報通信制御技術の進展に伴い、社会インフラとしてのエネルギー需給構造が従来の大規模集中から分散協調へと大きく変化する。そこには、多数の分散型エネルギーリソースが社会インフラである電力ネットワークに電気という形で物理的にかつ情報のつながった巨大なエネルギーインフラシステムとして時々刻々変化する姿がある。

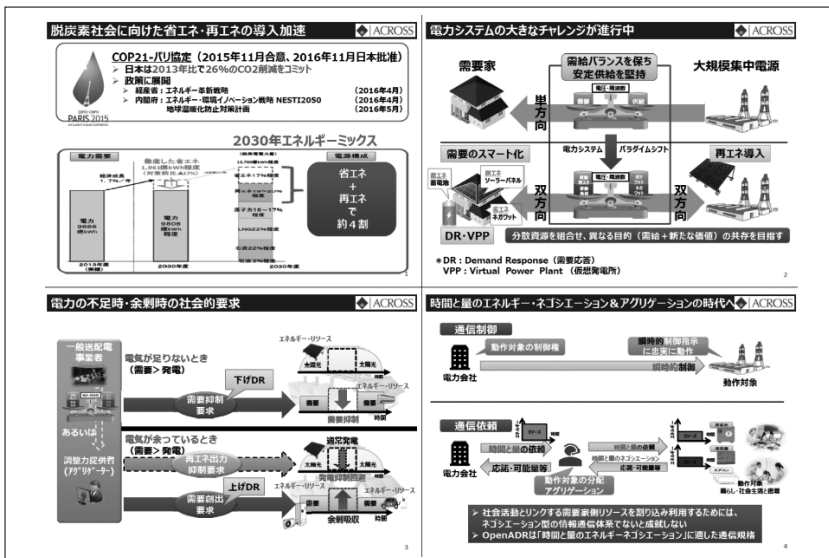


図1 分散型エネルギーリソースによる社会インフラの変化

このエネルギー需給構造の変化に伴い、エネルギーインフラの社会的課題（電力の効率的安定供給の実現、社会コストの最小化、CO₂排出の最小化など）が、これまで誰も経験したことがない形で出現してくる。従来型電力システムの成り立ち・運用をおさえた上で、変動する再生可能エネルギーの活用と分散型エネルギーリソースの統合・協調を主軸とする世界において、安定で高品質の電力利用を実現するために、発電・消費の予測・計測、これを取り入れた電力システム全体やサブシステムの運用、周波数・電圧制御技術等、総合的な研究開発が求められる。また、このためには、夫々に係るサブシステム・DER・計測センサーをICTで結合させ、データを共有することが不可欠要素であり、双方向分散協調システム全体で設備コスト・運用コストの最小化を達成する必要がある。

早稲田大学では、スマート社会技術融合研究機構（ACROSS）での研究活動を通して、国の動きをアカデミアの立場から牽引し続けている。本講演では、国/企業/早大の産学官連携とエネルギーリソースアグリゲーションの研究開発について概説した。

追悼

清水 司先生「お別れの会」が執り行われました



早稲田大学第11代総長、清水司先生が2017年10月21日に92年の生涯を閉じられました。2017年12月15日大隈記念講堂において、お別れの会が執り行われ、鎌田現総長をはじめ、第12代総長・西原春夫先生、日本私立学校振興・共済事業団河田悌一理事長、清水先生の研究室ご出身の加藤勇早稲田大学名誉教授が追悼の辞を述べました。清水先生は第33代EWE会長を務められ、EWEの大先輩として会の発展に貢献されました。お別れの会には多くのEWE会員も出席し、別れを惜しましました。

清水 司先生 略歴（早稲田大学HPより抜粋）

- 1948年 早稲田大学理工学部電気通信学科 卒業
- 1965年 早稲田大学教授
- 1970年 早稲田大学常任理事
- 1978年 早稲田大学第11代総長
- 1984年 日本私学振興財団理事長
- 1989年 中央教育審議会会長
- 1993年 早稲田大学名誉教授、名誉顧問
- 1993年 東京家政大学学長・東京家政大学短期大学部学長
- 1997年 文化功労者
- 1999年 学校法人渡辺学園理事長



ニュース

「伊藤 毅 生誕100年記念コンサート」のおしらせ



2018年5月3日は元電気通信学科教授 伊藤 毅先生の生誕100年です。記念の同窓会を開くのが一般的ですが、今回は「伊藤 毅生誕100年記念コンサート」を下記の通り開催します。

日 時：5月3日（木）（憲法記念日） 13時30分開場 14時開演

場 所：トッパンホール

チケッ ト：4,000円

出 演：堀内久世 山下洋輔

プログラム：伊藤 毅作曲 ピアノソナタ 第三番 他

お問い合わせ：東京アーティストズ：03-3440-7571

先生のご功績は、日本の音響学を代表されるような広い分野にわたりましたが、実は音楽一家です。先生は著名な作曲家の諸井三郎先生の内弟子になられたほどですから。先生はピアノ曲をいくつも作曲されています。娘さんはピアニスト、先生の従兄弟さんは日本を代表するジャズピアニスト山下洋輔さんです。娘さん、山下さんが伊藤先生のピアノ曲を中心に記念コンサートを開催します。

伊藤先生にご縁のある方、ご興味のある方は、お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

演奏会の後に打ち上げ会を開きます。

ホームページ <https://goo.gl/2wpD9E> もご覧ください。（または「伊藤 毅」で検索）

（記： 吉野武彦 昭和41年 音響研究室卒）

退任に際して

電力システムの運用・制御にめぐり逢えて

電気・情報生命工学科／電気・情報生命工学専攻 教授 岩本 伸一



もう、定年退職とのことであるが、本当に早稲田大学の電気工学関係の教授になれるとは夢にも思っていなかった。この学科で36年間、研究と教育ができたことに、心から感謝したい。

48年前（1970年）、「電力システム研究室」を選んだことが、電力システム分野に進むことになったきっかけである。当時は、計算機が本格的に応用され始めた時で、自分としては、一番「計算機シミュレーション」をやっていた研究室ということで、当時、田村康男教授と成田誠之助教授とで運営されていた「電力システム研

究室」に行くことにした。

また、米国の大学院に留学をしたいという希望を持っていた。その時に、成田先生が米国のクラークソン工科大学（現、クラークソン大学）から帰ってこられ、成田先生が米国のHammam先生に自分のことを話してくれ、その結果、TA奨学金を受けられることになった。2年間の滞米で英語力が上達し、それが、自分のそれからの人生を大きく変えた。

1974年8月下旬に帰国し、電力関係のメーカーに就職しようとしたが、ちょうど、その時に、日本ではオイルショック（イスラエルに味方する国にはオイルを売らないとアラブ諸国が宣言したこと）が起こっていた。まず、東芝に電話したら、「ちょうど、8月初旬の重役会で、新卒採用をストップすることになりました」と言われ、がっかりした。その後、三菱、日立にも電話したが、どこも新卒採用をストップしたことがわかった。それで、結局、運命に導かれるように、自分の希望ではなかったが、奨学金の出る「博士課程」へ進学することになった。

博士号を取るには、何かオリジナルで有用な論文を出さなければならなかったが、中々、そういう、アイデアが浮かばずに悩んでいた。当時は、大規模電力システムの電力潮流計算法を研究していたが、もうすでに色々な論文が出ていて、オリジナルなものを出すのが難しかった。電力潮流計算式は、極座標系では \sin と \cos を含んだ大規模連立代数方程式を解く問題であるので、テーラー級数展開すれば無限級数展開となるが、それなら、直角座標でやればどうなるだろうと、ノートに自分で書きまくって研究していた。ある時、研究室から少し外に出て散歩している時に、「ひょっとしたら、直角座標系では、あの第1項と第3項は、形が同じなのではないのか？」ということがひらめいた。そして、自分としては、生涯でベストの論文ができた。この時は、「一所懸命にやっていると、天が助けてくれるものだな…」ということを実感した。

博士号を取得できることが決まり、就職先を探し始めたが、早大電力研OBで当時東海大学の電気工学科学科長をされていた松元崇先生と自分の指導教授である田村康男先生が就職の話をまとめてくれた。東海大学は、教育的な負荷が大きかったが、雰囲気も良くやる気のある大学だったので、ここで、一生働くつもりだったのだが、ある日、田村先生より連絡があり、「学科で新任の先生の募集があるが、応募してみませんか？」ということだった。何人か候補が出たが、結局、自分に決まった。この件でも、田村先生と松元先生には、大変お世話になった。

そして、それから、36年間、この早稲田大学の電気工学関連学科の教員として頑張った。自分の研究室を持って、多くの人材を社会に出せたことを、本当にうれしく思う。早稲田大学に帰ってきてからは、多くの委託研究を受けることができ、それによって多くの恩恵を受けたことは忘れられない。特に当時、東京電力工務部長だった種市健氏には感謝したい。多くの委託研究を受けられたことが、岩本研究室のそれからの方向を大きく変えた。

色々な紆余曲折があって、電力システムの運用と制御めぐり会えて、本当に幸福な36年を過ごさせていただいた。早大電力研OBの方々には大変お世話になった。電力・エネルギー分野の研究・教育は、早大電力研OBの林泰弘教授や他の先生方が、今もこれからも頑張られると思う。これからの、早稲田の電力・エネルギー分野の発展を心から祈りたい。

寄稿

富永先生の叙勲をお祝いする会

情報通信学科 教授 亀山 渉

電子通信学科、及び、国際情報通信研究科で長らく教鞭をとられた富永英義先生が、2017年秋の褒章で瑞宝中綬章を受章されました。この栄えあるご受章を記念して、2018年3月2日夕刻から新宿の京王プラザホテルにて、「富永先生の叙勲をお祝いする会」が盛大に開かれました。富永先生のご家族、富永先生ゆかりの方々、平山研卒業生、富永研卒業生の約140名が集まり、富永先生のご受章をお祝い致しました。また、富永先生は2018年4月1日に傘寿を迎えられるということで、二重の喜びを出席者一同で共有するという大変幸せな時間を過ごしました。

今回のご受章は、情報通信技術の発展に関する富永先生の長年の重要かつ先駆的な種々のご研究、特に、磁気記録における変調方式と伝送符号に関する研究、ファクシミリの二次元符号化方式と国際標準化への貢献、動画像符号化方式の先駆的研究と国際標準化への貢献、マルチメディア情報ネットワークシステムの先駆的研究に対して授与されたものです。これらの研究成果は今日の情報通信社会の基盤の一部を形成すると共に、富永先生は多くの優秀な人材を育てられ、国内外における情報通信分野の進展に尽くされる等、そのご功績は誠に顕著です。

心よりお祝い申し上げますと共に、富永先生の益々のご発展をお祈り申し上げます。

富永英義先生 略歴

- 1962年 早稲田大学第一理工学部電気通信学科卒業
 - 1964年 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了
 - 1964年 日本電信電話公社勤務
 - 1971年 早稲田大学理工学部助教授
 - 1973年 工学博士（早稲田大学）学位授与
 - 1976年 早稲田大学理工学部教授
 - 1998年 早稲田大学国際情報通信研究センター教授（兼任）
 - 2000年 早稲田大学大学院国際情報通信研究科教授（兼任）
 - 2009年 早稲田大学名誉教授
 - 2017年 瑞宝中綬章受章
- 現職 公益財団法人 電磁応用研究所 理事長（2001年より）



若手OBの活躍

会話AIメディアの時代

カーネギーメロン大学 Language Technologies Institute/
Human-Computer Interaction Institute 研究員
松山 洋一（2014年度 情報理工学専攻 博士）



2018年初頭現在、チャットボットは巷に溢れ、ロボット端末が市場に多く出回り、大きな期待や落胆とともに、多くの会話AIサービスが流通されはじめている。これは過渡的なものだろうか？コンピュータの登場以来、自然言語を介して会話できるエージェントは夢想され、多くのシステムが実際に開発されてきた。現在、ディープラーニングが自然言語処理、対話処理の研究領域一般に与えたインパクトは絶大なものがあり、また開発フレームワークやデバイス等、産業的なエコシステムは準備され、本格的な会話AIメディア、サービスの登場の土壌は整いつつあ

るようにも見える。2020年に向かって、多くのサービスやデータは、そのようなAIメディアによって再整理されていくだろうとも予測される。同時に、市場の開拓とともに、新たなユーザーエクスペリエンス（UX）デザインの領域も広がり始めている。現在Webデザイナーのような職能が存在するように、会話型に代表されるAIメディアのためのデザイナーが産業の鍵となり得るとするならば、そのような領域を目指す人が考えるべきこととは何だろうか？

早稲田大学在学中から米国カーネギーメロン大学に所属する現在まで、私は多くの会話AIプロジェクトに参画してきた。とりわけプロジェクトリーダーとして主導した2017年の世界経済フォーラム（ダボス会議）公式バーチャル・アシスタントSARA（Socially Aware Robot Assistant）の開発の過程で、第4次産業革命の只中にある社会の基幹技術たるAIシステムやサービスのデザインのプロセスについて深く考えさせられた。AI時代のデザイナーや研究者は今後しばらくどのようなことに気を遣い、どのようなスキルを身につけていけば良いのだろうか？ここでデザイナーとは、システムやサービス全体のコンセプトを戦略的に構想し設計できる人のことである。以下の点は、もともと会話AIメディアのデザイナーの持つべき素養に関して考察したものだったが、おそらく（とりわけ特化型の）AI産業・研究分野全般に言えることと思う。

1. **ドメインの発見** - まずよいドメインを探さなくてはならない。革新的なコンセプトを表現できる最善のタスクシナリオは何か？ 設計の上流の段階で現実世界の問題を解決しうるAIのタスクを明確に設定することが研究やビジネスの成否の大部分を占めると言えるだろう。

2. **価値を与える** - DeepMindのAlphaGo成功は、そもそも彼らが囲碁という、価値が明確なドメインを選んだことにある。例えば、会話という現象ならどうだろうか？ いったい、会話AIは何を最適化すればいいのだろうか？ ここがデザイナーの腕の見せどころである。

3. **暗黙知のリバースエンジニアリング** - 今現在のAI要素技術の条件下で、特定の技能をもったAIをデザインするためには、実際に存在する職能を参考にするのが一番効率が良いだろう。ロールモデルとなる特定の職能のできるだけ詳細なブレイクダウンを行った上で、仕事のプロセスのどこを自動化できるかを考えていくことが必要である。このとき必ずしも完全自律システムとはなり得なくとも、部分的な自律化でも十分に社会の役に立つものができ得るだろう。

4. **説明可能なモデルの構築** - ブラックボックスになりがちな機械学習（特にディープラーニング）に対して、説明可能なモデルを作ることが様々な場面で求められる。なぜAIがそのような意思決定をしたのか、そのモデルからどのような知見を得るべきなのか、そのモデルが答えを出すプロセス自体に価値があることが多い。トップダウンな理論的仮説とボトムアップなデータドリブン手法をどのように融合するべきか、デザイナーは知恵を絞らなければならない。

5. **データ収集戦略** - AIや機械学習で一番難しいのは、結局のところ質の良いデータを大量にどう集めるかである。大抵の場合、取り組むべき問題が明確に定義されれば、最初に検討すべき機械学習アルゴリズムはだいたい決まるものだ。当然そこからアルゴリズムの発明や改善が行われていくわけだが、そもそもデータがないことには学習できない。現象は見ようとしなければ決して見えないように、データは集めようと思わなければ使えるデータは集まらない。アルゴリズムだけは研究としてもビジネスとしても生き残れない時代である。AIデザイナーは、特定の目的に沿ったデータをうまく集められるエコシステム自体をも考案しなければならない。

ところで、どうして人は会話をするのだろうか？ 私の答えの一つは、会話という行為が人間の認知機能にとってキラーアプリケーションであるから、である。AIが社会的知能を有することは、人間とAI、そして人間同士が円滑かつ創造的にコミュニケーションを行う上で必須のことであるはずだ。よりよい会話AIメディアのデザインのためには、要素技術を知っているだけでは足りない。何度でも、人間同士の社会的現象に向き合い、そしてそこから新しいメディアやサービスの発明に向かっていくべきだろう。人文科学も計算科学と同様の重みで必要な時代になった。

我々の日常の、何気なくて切実な会話—そこに科学と技術、そしてビジネスの最先端はある。

EWEホームカミングデー報告

2017年10月7日（土）、夕方の16時～18時の2時間ほどでしたが、EWE主催のホームカミングデーが開催されました。卒業生が現在の状況や将来について先輩と会話できる機会を設けること、ホームカミングデーをプラットフォームにして同期が集まるきっかけができることなどが目的で、今回は、卒業生9名、教員が7名、堀越会長、横井会長代理ならびに理事6名、学生8名の32名で和やかなひと時を過ごしました。

EWEのホームカミングデーの開催は今回で2回目です。今年度は新たに、現役学生のポスター発表も行いました。ポスターの前に現役学生、卒業生、教員が集い、和やかな雰囲気の中、活発な質疑応答が繰り広げられた場面もありました。

今回は、卒業・修了後10年以内のEWE会員を対象にメールで参加を募りましたが、今後は全EWE会員に広げて、より多くの方に出席いただきたいと思います。

事業担当理事 河原章夫



修士課程修了にあたって

電気・情報生命専攻 關 翼人
(村田研究室)



電気・情報生命工学科では学部1年生から3年生前期までの間、複合的に電気・情報・生命・量子について学びました。学んでいる当時は、自分で選んだ進路であるものの、学んだ内容を活かす機会はあるのか不安と疑問を持っていました。しかし、それらの疑問は、研究室に配属された3年生の後期に解決されました。

情報学習システム研究室に配属され、主に情報や数学の知識を活かした研究を行い、修士論文ではそれらの知識を活かした「複数の距離計量を用いたk近傍推定のための距離学習」という内容について研究しました。しかし、修士論文のテーマ以外にも様々な研究に携わる機会があり、それらの研究では学部1年生から3年生の間に学んだ内容が活かされました。例えば操業データのスケジュールを対象にした研究では、制御理論だけではなくモータなどの電気機器の基礎知識が活用されました。また、研究室では脳内の電気信号に関する研究を行っている学生もおり、議論の際にはニューロンに関する知識が役に立ちました。このように研究室における活動では、学部生として学んだ知識を存分に活かすことができ、新しい知識や技術の獲得といった学びがありました。

これから社会に出て、学んだ内容を活かす機会はあるのか不安に感じる研修や一見瑣末な業務などが多々あるかと思います。そのような場面でも、すぐにではなく、また十全にはないかもしれませんが、学んだ内容を活かす機会は必ず来ると信じて、真剣な姿勢で取り組みたいと思います。

最後に、ご多忙の中ご指導・ご助言下さった指導教員の村田昇教授、先輩の園田翔助手に心より感謝いたします。特に村田昇教授からは、共同研究や学会発表など学んだ内容を活かす機会を多くいただきました。研究室の先輩・同期・後輩の皆様にも、様々な形で支えてくださったこと、重ねて感謝申し上げます。

情報理工・情報通信専攻 伊勢 文貴
(中里研究室)



研究室に入り修士課程を終えるまでの3年間は、私にとって幅広く成長できたとても貴重な時間でした。特に成長したなと思うことは「能動的に考えられるようになった」ことです。

大学に入学してからの3年間は、授業を通じ「教授から提示された課題をこなしていく」といった、受動的な日々であったのに対し、大学4年生になり研究室に所属されると「自ら課題、解決案を考える」という能動的な日々に変わりました。研究室に入った当初は知識が少なく、自ら課題、解決案を考える経験が乏しかった私にとって、研究の成果もなかなか出ないため、焦りや不安を感じることも多々ありました。ただ、先輩方のアドバイスを元に出来ることから1つずつ取り組むことで、段々と知識が繋がり、理解できることが増え、成果が出始めるようになりました。それ以降、新たな課題に対し、まず取り組んでみる姿勢を持つことを大切にしています。

また、3年間の研究室生活を通じて、「仲間と協力していくこと」の楽しさも感じる事ができました。私が携わった研究は、文献が少なく、なかなか一人では研究を進めることが出来ない状況に陥った時に助けてくれたのが研究室の仲間たちでした。それぞれが研究に取り組み、誰かが大きな課題で躓けば全員で解決を探る。成果は共有してみんなで喜び、論文・発表作りまで一緒に考える。研究外も含めてたくさんの良い思い出も出来ました。研究室の仲間のおかげで、研究自体が辛いと思うことも無く、むしろ支えあって課題に取り組む楽しさを経験することが出来ました。

最後になりますが、修士課程を修了するにあたり、今まで数多くのご指導をして頂いた中里先生に感謝を申し上げます。先生方のおかげで、研究を通じて専門性だけでなく、考え方や表現方法まで幅広く学ぶことができました。また、研究室の先輩を始め、同期や後輩に至るまで、研究で携わった全ての方に、感謝を申し上げたいと思います。

電子物理システム学専攻 依田 大輝
(渡邊研究室)



私にとって研究室に配属されてからの3年間は「巨人の肩の上に立つ」こと、つまり、先人たちの築き上げた知恵や発見を生かすことの大切さを学んだ3年間でした。

私は渡邊先生の元で3年間、羽ばたき型ロボットを実用化するための研究をさせていただきました。電子物理システム学専攻の私たちにとって、羽ばたき型ロボットの開発は必ずしも専門分野とは言えません。そのため、私たちの研究は何をするにも様々な方の協力が必要不可欠で、先人たちの知識を利用することが何よりも大切でした。

そのことを最も実感したのが、修士1年時の経験です。私たちの研究は幸運にも平成28年度技術シーズ選抜育成プロジェクトというJSTのプロジェクトに採択され、私はチームリーダーとして半年間プロジェクトを主導する立場になりました。

プロジェクトの目標は「垂直離着陸が可能な羽ばたき型飛行ロボットを半年間で開発し、多くの人が集まる展示会で発表すること」でした。しかし、採択当時私たちには自力で構想通りの機体を製作する術がなく、このままでは期間内に目標を達成できないと途方に暮れていました。転機となったのは、渡邊先生の「専門家に協力を仰いではどうか、先人の力を利用するのも立派な研究の一つ」という言葉でした。

そこで私は機体の基本構造の製作を小型飛行機製作の専門家に依頼し、半導体メーカーから開発中の制御装置の提供を受けるなど様々な専門家の協力を受け、自分たちは姿勢制御技術の開発に注力しました。その結果、様々な飛行が可能な羽ばたき型ロボットを開発することに成功し、ホバリング飛行時の安定性を高める新技術の特許出願にまで至りました。まさに「巨人の肩の上に立つ」ことで、今までなし得なかった新たな知見を得ることができたのです。

このような貴重な経験ができたのは、ひとえに渡邊先生をはじめ、研究室の皆さんなど様々な方の支えがあったからに他なりません。この場を借りて、私の研究にかかわるすべての方々に深く感謝いたします。最後に、私の研究が後輩たちにとって少しでも「巨人の肩」になってくれることを期待します。

地方本部だより

東海地方本部

東海地方本部では、2017年5月22日（月）に東桜会館にて平成29年度の総会を開催いたしました。EWE本部より堀越佳治会長をお招きし、地方本部からは17名の会員にお集まりいただきました。

総会は、竹尾聡本部長（S49電）の開会挨拶に始まり、堀越佳治会長よりご挨拶をいただきました。ご挨拶の中で、堀越会長から、早稲田電気工学会EWEの活動や工事後の中庭の様子、東京都市大学との共同大学院である共同原子力専攻についてご紹介いただき、歓談へと移りました。

最後は、恒例の「紺碧の空」「都の西北」の斉唱とエールを行った後、下村様（S63電）の閉会挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。

ご出席賜りました堀越会長、ならびにご協力いただきましたEWE本部の皆様に厚く御礼申し上げます。

東海地方本部では、今後も定期的に総会を開催し、企業や世代の枠を超えて交流を深めていきたいと考えております。電気を学んだ者同士、近況報告や思い出話に花を咲かせるのは楽しいものです。東海地方にお住まいの方は、是非一度総会にご参加ください。ご連絡をお待ちしております。（地方本部連絡先一覧参照）

記 中部電力 小河原 竜一



関西地方本部

関西地方本部では、2017年11月8日（水）にEWE堀越 佳治会長、渡邊 孝信副会長にご出席頂き、2017年度総会を開催致しました。本年度は、会場を例年の梅田「関西文化サロン」から中之島「関電会館 ダイニング・カフェ エルガーデン」に移しての開催となりましたが、関西地方本部からは33名の会員に出席頂き、大変活気ある会となりました。

総会は、浜野 正幸会長（S59電気、関西電力）の挨拶に始まり、その後、堀越会長、渡邊副会長から早稲田大学の近況についてご紹介頂き、出席者一同聞き入っておりました。

総会後の懇親会は、鈴江 啓宏氏（S41 電気）のご発声により開会し、その後、恒例の早稲田グッズの景品も用意したビンゴゲームで盛り上がり、早稲田大学校歌のエール、白石 高生氏（S48電気）のご発声による万歳三唱で、盛況のうちに閉会しました。

最後になりましたが、当日ご多忙な中ご臨席頂きました堀越会長、渡邊副会長、ご協力頂きましたEWE事務局の皆様には厚くお礼申し上げます。

さて、関西地方本部では、今後のますますの発展のため、関西に在住される会員の把握と総会出席の呼びかけに取り組んでおります。転勤で関西に来られた方、また会員をご存知の方は、関西地方本部までご一報よろしくお願ひします。

執筆：山本 浩数（H14情報修、パナソニック）



中国地方本部

中国地方本部では平成29年度の総会を12月12日（火）にメルパルク広島で開催しました。ご来賓として、EWE本部より横井会長代理をお招きし、地方本部会員からは14名が出席されました。

総会では、迫谷地方本部長（S50卒）の挨拶に始まり、その後、横井会長代理からEWEおよび早稲田大学の近況についてご紹介いただき、出席者一同興味深く聞き入っておりました。

総会に続く親睦会は、藤川さま（S58卒）の乾杯により始まり、旧交を温め合いました。多方面で活躍されている諸先輩方からお話をいただき、幅広い年代の会員が、来賓を囲んで楽しく親睦を深めることができました。

会は恒例により校歌「都の西北」を斉唱し、さらには出席者の飛躍を誓い、応援歌「紺碧の空」を出席者全員で肩を組んで歌いました。最後は、矢野さま（H21卒）の音頭によるエールで親睦会は盛況のうちにお開きになりました。

ご多忙の中ご出席をいただきました横井会長代理、ならびにご協力いただいたEWE本部の皆さまに改めて厚く御礼を申し上げます。また、今後も微力ながら母校の発展のため、当地方本部の活動を盛り上げていきたいと考えております。

最後になりますが、中国地方の親睦の輪を広げていくためにも、転勤などで中国地方に來られた方、案内が送付されていない方、またその他ご意見・ご要望がございましたら、事務局までご一報ください。

（中国電力（株）進藤史裕）



地方本部連絡窓口一覧

北海道地方本部	〒060-8677 札幌市中央区大通東1丁目2番地 北海道電力(株) 企画部 総合計画グループ 前田 知哉 電 話：011-251-4046 E-mail：h2005013@epmail.hepco.co.jp
東北地方本部	〒980-8550 仙台市青葉区本町1-7-1 東北電力(株) 電力システム部 平松 大直 電 話：022-799-2871 E-mail：hiramatsu.hironao.ud@tohoku-epco.co.jp
北陸地方本部	〒930-8686 富山市牛島町15-1 北陸電力(株) 経営企画部 需給計画チーム 福田 泰史 電 話：076-405-3074 E-mail：fukuda.taishi@rikuden.co.jp
東海地方本部	〒461-8680 名古屋市東区東新町1番地 中部電力(株) 電力ネットワークカンパニー 小河原 竜一 電 話：050-7772-0742 E-mail：Ogahara.Ryuuichi@chuden.co.jp
関西地方本部	〒571-8506 門真市大字門真1006番地 パナソニック スマートファクトリーソリューションズ(株) 山本 浩数 電 話：050-3686-3965 E-mail：yamamoto.hirokazu@jp.panasonic.com
中国地方本部	〒730-8701 広島市中区小町4-33 中国電力(株) 送配電カンパニー 制御システムグループ 進藤 史裕 電 話：050-8202-2772 E-mail：181562@pnet.energia.co.jp
九州地方本部	〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1-82 九州電力(株) 人材活性化本部 人事グループ 江島 慶彦 電 話：092-726-1613 E-mail：Yoshihiko_Ejima@kyuden.co.jp

クラス会だより

電気通信学科 1947 (昭22) 年卒 クラス会

一昨年の生存者6名は今年も健在であり、今回も5月6日、東京近辺在住の3名が、リーガロイヤルホテル東京・レストラン「なにわ」に集まりました。

全員90歳を過ぎ、毎年のことながら健康情報交換と戦中戦後の経験が主な話題でしたが、今回は、赤松の持参した、新聞掲載の早稲田界隈の絵地図と古い学生名簿を資料に、先生方や先輩の思い出話のほか、第一学院入学時期の当時の穴八幡の情景や、今も盛業中の高田牧舎の当時の昼食などにも話題が及びました。

この会も1998年(平成10年)から欠かさず行ってきたこともあり、できる限り続けようと申し合わせて散会しました。

好天の大隈庭園に出て、つつじの前で記念撮影をしましたが、今年はつつじの花はちょうどいい盛りでした。

(赤松正也 記)

出席者 (左から、栗島、赤松、伊藤)



電気工学科 1962 (昭37) 年卒 同窓会報告

定例となっている10月の最終日曜日は、生憎の雨模様であったが、九州からの参加者を含め、総勢25名が大隈会館に参集した。

(塚原君)： 鉄鋼マンから博士課程・大学教職の新たな道を歩む、意欲的な第二の人生。

(湯浅君)： 商社マンとして、海外の電力プラント導入・設置に大活躍の猛烈人生。

(多田隈君)： 電機メーカーから学会に転じ、IEEEのフェローとして活躍。

(河内君)： 最近のアウシュヴィッツ探訪を含むポーランド旅行記と、深い歴史／世界観。

(田村君)： 民需・軍需を含む内外の船舶工業の市場・技術トレンド紹介。などの、スピーチを聞きながら歓談し、来年での再会を期し散会した。

(H29年度幹事：伊原・岩井・相沢・内野 文責：嘉山)



電気通信学科 1962 (昭37) 年卒 クラス会報告

2017年3月4日(土) 富永先生が理事長をされている電磁応用研究所にて開催いたしました。

最初にこの1年間にご逝去された根岸哲さん・田辺道弘さんを偲び黙祷を捧げました。

開催挨拶は富永先生より電磁応用研究所の紹介も兼ねてお話があり、その後、懇親会の乾杯は当日最初に来られた難波さんにお越し懇親に移りました。

近況報告では欠席者の状況について幹事より報告し、その後濱本さんから三木さんのEWE活性化委員会での活躍、春木さんご夫婦の句集の紹介等があり、それぞれ、三木さん、春木さんからコメントを頂きました。

長森さんからはEWEの活性化に関して、東芝・下村さんについて紹介がありました。

松井さんからはC型肝炎の治療に関する最新の治療方法が紹介されました。

ゴルフの活動については梅田さん・吉川さんから当日の写真等紹介されて報告がありました。

最後は少し手間取りましたがYouTubeの早稲田大学校歌をバックに斉唱して解散となりました。

次回から、毎年3月第一土曜日13時から電磁応用研究所にて開催。

2016年度幹事 富永英義 稲尾勝三 長田喜久 小林新平 田中秀幸 三原種昭
吉川稔



電気工学科 1964 (昭39) 年卒 クラス会 毎年盛況の同期同窓会



今年も同期卒業仲間での楽しいクラス会・忘年会を開催した。古希を過ぎた頃に、元気で皆で集まれる懇談の機会を毎年持とうよとの声により、それまで隔年であったクラス会を毎年開催することになった。

遠方からの参加も考慮し、交通利便性が良く分かり易い場所が良かろうと東京駅前新丸ビル内の中華料理店の個室を貸し切った開催で、九州から駆け付けた仲間も居り多数が笑顔で集まった。物故者への黙祷を捧げたのち元気で集まれる喜びに乾杯し、楽しい懇談に盛り上がった。

話題は世界情勢・国際問題・電力・メーカー問題、また大学時代当時の部活や友情恋愛等沢山のテーマに花が咲いた。また健康上のアドバイスや体験的参考情報提供など充実して役に立つ内容に時間のたつのも忘れ3時間があっという間に過ぎた感じだった。今は人生100年と言われる時代だと大いに意気上がり、それにはまだまだ活動余裕があるぞと、将来に向けても大いに意気が盛り上がった同期同窓会仲間ならではの楽しい集まりであった。

最後に小野隆文君音頭
の元気溢れる関東一本締め
手拍子で次回への再会
を約し、集合写真を撮って
散会となった。

幹事・河野通直 記
写真・山内修司



電気通信学科 1964 (昭39) 年卒クラス会

2017年のクラス会は、新宿・住友クラブで午餐会として10月17日行われました。海外より、中国で活躍している実業家の楊と、米国で研究生生活を続けている新村、大阪より駆け付けてくれた高橋、総勢20名の参加者でした。

我々が卒業した1964年は「東京オリンピック」の年、はや50数年、各人忘れられたことや、今後の日本や世界の進む方向などの思いを引き出したいと、各人に事前に話のテーマを準備して貰い、12:00～15:00の間、全参加者に近況をご報告する懇話会と致しました。

加齢に伴う健康の事や、一日の有意義な過ごし方、旅行、趣味など、楽しい語らいの時間があったという間に過ぎました。小島からは、趣味として続けている合唱の一部の披露があり、最長老の楊は、新たな設備投資を考えているとの事、二年後の会社の創立30年記念日に、中国珠海に皆を招待し、クラス会を開催し、校歌を歌って貰いたいとの提案がありました。

研究者の新村は、いつもの様にプロジェクターで、皆が首をかしげる難しい理論の話を紹介してくれました。

最後に山田の音頭で早稲田大学校歌斉唱、記念撮影し、来年の再会を期しました。

(2017年度幹事団 大森・中島・木島・小谷)



於 新宿・住友クラブ 2017年10月17日

電気通信学科 1966 (昭41) 年卒 クラス会

昭和41年電気通信学科卒業のクラス会を2017年10月14日（土）に昨年と同様、西早稲田キャンパス竹内ラウンジで開催しました。出席者は例年並みの28人と多く、今回も盛況でした。

前回はピアノ演奏など皆さんの多彩な特技を披露していただきましたが、今回はさらなる親睦を目指して、歓談が中心になりました。1年後の再会を約束し、お開きとしました。

なお、同ラウンジは移転により第1会議室をパーティションで仕切ったため、会議室と懇親会の同時開催には適していません。予約ノートに「卒業生の懇親会が開催されます」と書き込むことをお勧めします。



(文責：杉原鉄夫)

電気工学科 1971 (昭46) 年卒 クラス会

東京は40年ぶりの低温になったり、北陸地方では例年の3倍近く降雪があったりしています。

2017年12月に、わが同窓会の名付け親で同窓会をリードしてきた副会長の御園生勲君が体調を崩し、逝去されました。そのような中、新年会が1月28日に開催されました。はじめに、御園生君のご冥福を祈り、合掌しました。次に、乾杯の音頭とともに会は始まりました。

後任の副会長の人選は、内田健康君にお願いすることが参加者全員の拍手のもと決定いたしました。

その後、会長から昨年度事業報告の発表、同窓会組織の一部見直し等が行われ、本来の議題である次回同窓会の開催について議論しました。

結論は2年後の秋に卒業五十周年を祝して理工学部食堂で開催する事に決定しました。

その後、合田君が御園生君の写真をプロジェクターでスクリーンに投影し、皆で故人の業績の数々を偲びました。

今回特筆すべきは16人にも参加者が増えたことです。これは、我々が古希の世代に入って仲間同士お互いに助け合おうという気運が生まれたことと、新年会・同窓会合わせて7回開催して同窓会活動が活発になり安定してきたことによるものだと思います。

その好例に、副会長・青木君と常任理事・吉田君の両家の婚儀が相整い結婚式を挙げたことが挙げられます。さらに、関西支部で第2回の新年会が行われ、今年も開催の予定です。

46早稲田大学理工学部電気工学科同窓会バンザイ！！

46早稲田大学理工学部電気工学科同窓会 会長 草間晴夫



電気通信学科 1971 (昭46) 年卒 クラス会

2017年10月21日、大隈会館にてクラス会を開催しました。2015年のホームカミングデーに合わせて開催した前回から2年目の再会です。台風の影響もあり心配しましたが、幸い出席予定者24名全員が集合。

新規参加者は7名。残念ながら今回不参加になった方もいますが、前回より多くのメンバーと連絡が取れました。連絡対象は1967年入学または1971年卒としました。(都合により留年された方々にも出席して頂くためです)

同期で亡くなられた方(6名)に黙とうを捧げた後、上野谷君の音頭で乾杯し、歓談開始。今回は立食・ビュッフェ形式としましたので、話の輪が出来てはほどけ、話が弾みました。卒業後初めてクラス会に出席した方もおり、前回同様、顔と名前が一致しないとぼやく方もおられました。その後、各自ショートスピーチで現況を紹介しました。会場の都合で「都の西北」斉唱は断念し、再会(2年後2019/10/19)を約束して散会しました。

参加者(順不同): 青木久仁男、飯塚義仁、石木幹人、犬丸文雄、上野谷拓也、大井進、大賀英二、岡丸修、川口正晴、小島敏郎、竹井誠、武市博明、鶴田節夫、戸田博道、豊田信行、前田武志、松田聖、森本誠、簀光雄、山田厚二、山本康博、吉田初夫

幹事: 神田泰夫、町山晃(文責)



学生支援基金報告

ETロボコン2017 活動報告とご支援への感謝

基幹理工学部 情報理工学科 鷲崎研究室

南雲 宙真

「ETロボコン2017」とはエンジニアの育成を目指し、若手・初級エンジニア向けに設計・開発にチャレンジする機会を提供することを目的としたロボットコンテストです。今年度は前年度に引き続きこのコンテストの【デベロッパ部門プライマリークラス】に参加し、その参加費用にEWEの学生支援基金を利用させていただきました。



このクラスでは二輪倒立走行ロボットにライトレースや階段・ゲートなどの難所を攻略させる組み込みソフトウェアを作成し、当日のコンテストでの走行タイムと事前に提出したソフトウェアの設計図の評価を競います。

今年度は5名のチームで参加しました。メンバー全員が組み込みソフトウェアの開発は未経験でしたが、過去の参加チームの資料探しや開発環境の構築から始まりチームメンバーで協力して設計・開発を進めました。チームの目標を“地区大会突破”と決めて4月から活動を始め地区大会が開催される9月まで夏休みも含めて約半年間、毎週3回前後の頻度で集まり活動をしていました。



地区大会直前では時間が許す限りチームで作業するなど努力はしたのですが、残念ながら地区大会の突破はできませんでした。しかし、今回の組み込みソフトウェア開発はメンバー一同にとっても貴重な経験になりました。さらに、今年度は富士通コンピュータテクノロジーズ様が主催する「ETロボコン2017 FCT杯」という「ETロボコン2017」と同様のコンテストを行う大会にも招待いただきました。両コンテストを通して多くのエンジニアと交流することができました。

最後になりますが、このコンテストへの参加をご支援いただき誠に有難うございます。

ACM ICPCアジアつくば大会 活動報告とご協力へのお礼

基幹理工学研究科 情報理工・情報通信専攻 山名研究室 修士1年

佐藤 宏樹

基幹理工学部 情報理工学科 鷺崎研究室 学部4年

石塚 凌

ICPCは、計算機学会ACMが主催し、1976年から毎年開催されているプログラミング競技大会です。3人1組でチームを組み、プログラミングと問題解決の能力を競う大会です。アジア地区つくば大会では、競技開始と同時に11問の課題が示され、5時間の競技時間中に、提出するプログラミングの正確さとそれを完成するまでの速度を競います。3人1組にも関わらず、競技中には1台のマシンしか使えないため、個々のスキルだけではなく、チームワークも必要になります。多くの企業からの注目も集めており、Preferred Networks、リクルートホールディングス、LINEなど、つくば大会は国内18の企業がスポンサーをしています。

2017年7月に開催されたオンライン国内予選では、全国から350チーム、本学から10チームが参加しました。この結果から早稲田大学からは2チームが選拔され、12月に開催されたアジア地区つくば大会へ進出しました。本大会には、国内・海外から合わせて50チームが参加しました。上位チームは2018年4月に開催される世界大会（World Finals）へ進出します。

ICPCアジア大会へは、2015年は早稲田大学からの出場がありませんでしたが、2016年は1チームが出場し、2017年は2チームが出場し前年よりも順位を上げるなど、近年学内でICPCに関連した動きが活発になっています。ICPCで競われる能力は競技プログラミングと呼ばれ、ICPC以外にも、毎週オンラインで短時間のコンテストが開催される他、GoogleやFacebookなどの企業も毎年コンテストを主催しており、それらのコンテストに出場する早大生の人数は右肩上がりです。特にICPCに向けて、2017年は約半年間ほぼ毎週のように過去の問題や他地区の問題を用いて勉強会や練習会を実施してきました。その結果、前年度（35位）と比較して大きく順位を上げ、12位と22位に入賞しました。

以下は、大会出場の各チームからのコメントです。

【チーム SyntaxSato から】

私達は現修士1年の同期3名でチームを組み、昨年から予選に出場しています。昨年は国内オンライン予選を突破できず、この悔しさから、1年間共に練習を続けてきました。練習の過程では、1つの問題に対して3時間も4時間も議論を続けるようなこともありました。その結果、今年はアジア大会に出場し、12位に入賞することができました。上位に入れなかった悔しさは残りますが、仲間と友に目標に向かって切磋琢磨を続ける経験ができました。



【チーム up to you から】

今年度は昨年ICPC地区予選に進出した石塚と、新たにチームに加わった笠原、山崎の3人で上位入賞を目指して半年間練習を積んできました。アジアつくば大会では序盤から躓いてしまい、最後まで挽回する事ができずに22位という悔しい結果になりました。今年の反省を踏まえ、来年は世界大会に出場できるよう練習を続けたいと思います。



今年度はアジアつくば大会で本学からのICPCへの挑戦は終了しましたが、既に来年度のICPCに向けての話が盛り上がっています。来年度はさらに上のレベルへ到達できるよう準備を進めていきます。また、学内全体でより競技プログラミングが盛り上がるよう、共に練習や交流をする機会を増やしていき、より活性化を図りたいと考えています。

最後になりましたが、本大会参加にあたりEWEの学生支援基金を利用させていただきました。深くお礼申し上げます。

EWE活性化委員会2017年度活動報告

11年目を迎えた活性化委員会の活動を報告します。

●会員アドレスの収集

2018年1月末現在の登録アドレス数は約6500件です。

●EWEウェブニュースの配信

2017年1月～12月の1年間で21件のニュースを配信しました。内容は、シンポジウム等の案内4件、EWE活動関連3件、大学関連3件、ヘッドラインニュース10件、寄稿1件

●活性化委員会企画主催 EWE先輩と学生の交流会

開催日：2018年1月17日（水）

講演会場：西早稲田キャンパス63号館2階第3・4・5会議室、参加企業34社・2省庁電気系の学生を中心に学部、修士、博士の学生計188名が参加しました。

懇親会：講演会後、63号館1階で143名の参加者が先輩との交流の機会を持ちました。

配布資料：参加企業で活躍中の若手先輩から学生宛のメッセージを掲載した小冊子を1月に作成し教員に配布した後、当日参加者に配布しました。

●企業見学会

今回中止

●海外大学院留学説明会の支援

2017年12月21日、西早稲田キャンパスで開催。海外留学を目指す理工の学生の為に、米国大学院学生会と協力し、海外留学生による説明会及び懇談会の支援を理工学術院及びEWEの協力のもとに行いました。講師4名、参加者：約40名、留学経験を基にした講演と活発なパネルディスカッションが行われ、盛会でした。

●講演会

スケジュール調整が困難であったため2017年度の開催を見送り、2018年4月以降に開催することとしました。

活性化委員会メンバー

下村尚久	1960通	高橋 弘	1960電	*三木博之	1962通	尾崎 肇	1962電
中村耕造	1963通	矢幡明樹	1964電	本多正己	1965電	吉野武彦	1966通
穴澤健明	1967通	小野沢純一	1971電	片岡冬里	1972電	鳥居司郎	1980通

*委員長

(卒業年次順)

活性化委員会設立と活動に貢献された委員

種市 健	1959電	田中良一	1963通	大附辰夫	1963通	太田健一郎	1963通
石川 宏	1965通	小泉金之助	1965電	杉原鉄夫	1966通	原口昂夫	1967電
小菅康晴	1970通						

EWE三月会2017年度活動報告

基本的には毎月第三月曜日に開催しているEWE三月会（さんげつかい）は、下記のように10回の講演会を開催しました。毎回、熱心な方々が参加して活発な質疑応答がありました。最も参加者が多かったのは、西原春夫先生による「明治14年政変の背景と歴史的意義」でした。



2018年度も多岐にわたる分野の先生方をお招きして様々な分野の講演を計画しております。毎回15名程度の少人数ですから、講師の先生との質疑応答も和やかな雰囲気の中で自由闊達な議論が展開されます。まだ参加されたことがないEWE会員の方も大歓迎です。まずは一度聴講し

て、体験して頂ければと思いますので、次頁記載のアドレス宛てにご連絡をお待ちしております。

1月例会：1月16日（月）「物理学とエレクトロニクスを基盤とする研究・教育」

早稲田大学 基幹理工学部 電子物理システム学科 教授 谷井 孝至 先生

2月例会：2月20日（月）「歴史から読み解く気候変動」

ナチュラル研究所 所長 石川 宏 先生



3月例会：3月21日（火）「コンテンツ指向ネットワーク」

早稲田大学 基幹理工学部 情報通信学科 教授 中里 秀則 先生

4月例会：4月17日（月）「明治14年政変の背景と歴史的意義」

早稲田大学 元総長、一般財団法人アジア平和貢献センター理事長、
少林寺拳法東京都連盟会長等 西原 春夫 先生

5月例会：5月15日（月）「IEEE President当選とマルチコア研究開発に関する産学連携」

早稲田大学 基幹理工学部 情報理工学科 教授 笠原 博徳 先生

6月例会：6月19日（月）「インターネットの先に来る未来」

前朝日新聞ジャーナリスト学校 シニア研究員 服部 桂 先生

7月例会：7月18日（火）「今、話題のIoTやインダストリー 4.0とは何か？」

前参議院議員、株式会社ニューカルチャーラボ代表取締役社長 山田 太郎 先生

9月例会：9月19日（火）「重点研究領域（情報系）の概要と関連する話題」

早稲田大学 基幹理工学部 情報通信学科 教授 甲藤 二郎 先生

10月例会：10月16日（月）「ナノシートが拓く未来の健康・医療の姿」

早稲田大学 先進理工学部 生命医科学研究科 教授 武岡 真司 先生

11月例会：11月20日（月）「長鎖ノンコーディングRNAの機能の解明に向けた
バイオインフォマティクス技術」

早稲田大学 先進理工学部 電気・情報生命工学科 准教授 浜田 道昭 先生

忘年会：12月19日（火）森の風にて



EWE三月会幹事・事務局 唐澤 豊（昭和45年電気） 記

メール：ewesangetsukai@gmail.com

学生部会報告

研究室対抗ソフトボール大会

2017年11月2日（水）、EWE主催の研究室対抗ソフトボール大会が去年と同じ、江戸川河川敷野球場にて開催されました。当日は暖かい日差しのもと、多くの学生が汗を流しながらソフトボールを楽しみました。参加は40チームと去年より少なかったのですが、ソフトボールを通して、研究室内外の学生と親睦を深めることができ、大いに楽しめたと思います。

午前9時の試合開始に向け、早朝から準備をします。EWE学生委員の指示の元、ベースを置いたり、白線を引いたり、用具の確認など試合会場の準備を行ないました。出場する学生は、朝の早い時間にもかかわらず、空いている面でキャッチボールをしたり、バッティング練習をしたりと、十分な準備運動を行った後、試合に臨んでいました。試合中はそれぞれのグラウンドに多くの人々が集まり、応援する声、歓喜、落胆の声が飛び交い、盛り上がりを見せていました。

研究室ごとに特徴があり、楽しく運動したいというチーム、ユニフォームを描いて一体感を感じるチーム、優勝目指して日々鍛錬を積み本大会に挑むチームや、面白いチーム名を考え盛り上げるチームなど、どのチームもソフトボールを全力で楽しんでいました。午前中の試合が終了すると、皆で青空の下で昼食をとりました。研究室ごとにまとまって食べると、いつも研究室で食べるのとはまた違う“美味しさ”があったと思います。



優勝した若尾研究室のみなさん

午前中の試合を勝ち抜いたチームが、午後の決勝トーナメントへと進みます。決勝トーナメントでは、練習の成果を遺憾無く発揮し、白熱した試合を見ることが出来ました。声援にも熱がこもり、優勝への意気込みがどのチームからも感じることが出来ました。残念ながら午前中で敗退してしまったチームも、空いている面で練習試合を行ない、親睦を深めていました。

激戦を制覇し、今年度の優勝を果たしたのは、電気・情報生命工学科 若尾研究室 若尾オప్పッピーズでした。このチームは2014年度準優勝、2015年度・2016年度優勝記録を持つ、強豪チームです。おめでとうございます。

最後に、本年度も無事に運営できたことを嬉しく思うと同時に、EWE学生委員を支援くださった事務局の中村様を始め、参加していただいた先生方、学生の皆様にも感謝いたします。来年も素晴らしい大会になることを願っています。

EWE学生部会委員 情報理工・情報通信専攻 横山 彩

2017年度修士論文一覧

＜電気・情報生命専攻＞

- 石山 敦士 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ishiyama/>
 岩田 祐樹 BMI精度向上のための運動想起判別手法の提案
 小曾根裕一 10T級MRI用高温超電導磁石における遮蔽電流による不整磁場の抑制手法に関する研究
- 矢代 聡佳 無絶縁REBCOマルチバンケーキコイルの局所的常電導転移現象に関する実験的考察
- 横尾 祐輔 275kV系統高温超電導ケーブルの実用化に向けた短絡事故時の冷却特性に関する研究
- 井上 真郷 研究室 <http://www.inoue.eb.waseda.ac.jp/>
 大石 晴子 Kneser-Neyスムージングによる和音の継続時間情報を考慮した和音進行解析
 小俣幸之助 Bayesモデル化したガンマ回帰による生体腎移植における術後7日目の血清Cr値モデリング
- 菅 智徳 複数の画像事前分布の組み合わせにBayes最適化を用いた圧縮センシングによるCT画像再構成
- 武川 莉奈 相互情報量の期待値を利用し第三者介入を考慮した無作為割付試験アルゴリズムの提案
- 松尾 篤樹 交換Monte Carlo法を用いたMR画像事前分布の正則化パラメータ推定と性能比較
- 岩崎 秀雄 研究室
 切江 志龍
 戸井田一磨
 平林 賢人
- 岩本 伸一 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/iwamoto/>
 相原 祐太 PV大量導入時の短時間予測を用いた変動予測電圧先行制御手法に関する研究
 小柳 唯 過渡安定度N波脱調予測へのロジスティック回帰分析の適用
 佐藤 吾子 時間領域等面積法を用いた過渡安定度指標に関する研究
 田邊 龍 再生可能エネルギー大量導入下におけるLFC用蓄電池の効率の運用手法
 永川 恭州 電力需要減少時における変電所スリム化に関する研究
- 内田 健康 研究室 http://www.uchi.elec.waseda.ac.jp/index_j.html
 洪 元 戦略的入札を考慮した一日前電力市場のシミュレーションモデルの構築
 汐見 優子 高速道路での交通流改善を目的とした車線変更手法
 杉田 一真 1型糖尿病患者の血糖制御におけるレブチンの効果
 辻 仁望 うつ病の数理モデルの構築とその解析
 藤本 佑真 製鋼工程におけるクレーン物流システムのモデル化と高速スケジューリング
 堀尾 怜椰 アグリゲータを導入したエネルギー需要ネットワークの最適化
- 大木 義路 研究室 <http://www.f.waseda.jp/yohki/>
 畔柳 知里 テラヘルツ分光による高分子絶縁材料の結晶構造解析
 落合 祐輔 溶液法IGZO薄膜のGa比率が電気特性に与える影響

- 香西 拓哉 テラヘルツ分光による高分子絶縁材料中の不純物の検出および添加剤の同定と定量
- 小谷 浩理 燃焼後の各種ケーブルシースの表面物性に及ぼす事前劣化の影響
- 白水 秀幸 光ディスク装置を用いた大腸菌の検出
- 根岸 颯人 光照射による溶液法IGZO薄膜トランジスタの閾値電圧のシフト
- 築嶋 稜祐 エポキシ樹脂MgOナノコンポジットの導電率に及ぼすフィラー粒径および添加量の影響
- 熊 有華 IGZO薄膜の電気特性に与えるイオン注入と熱処理の影響

岡野 俊行 研究室<http://www.okano.sci.waseda.ac.jp/>

- 安部 広大 抗ゼブラフィッシュ CRY6抗体の作製及びゼブラフィッシュ CRY6の局在解析と相互作用分子の探索の試み
- 伊藤 正晴 ヒトの暗順応を利用した快適かつ効率的な照明制御法の検討
- 織井 彩乃 Asp502に着目したcCRY4の光依存的な構造変化の解析
- 更谷 有哉 ドジョウにおける行動リズムと時計遺伝子発現の解析
- 三浦 宏太 温度依存的な抗原-抗体反応を利用したタンパク質精製系の構築及びその原理の解明

胡桃坂 仁志 研究室<http://www.kurumizaka.sci.waseda.ac.jp/>

- 石丸 雅一 HP1によって形成されるヘテロクロマチンの構造生物学的・生化学的解析
- 太田 充 DNA損傷応答に重要な γ H2A.Xを含むヌクレオソームの機能解析
- 鈴木 翠 セントロメア特異的な高次クロマチン構造の解析
- 水上 優夏 細胞初期化に重要なパイオニア転写因子Oct4とSox2が標的ヌクレオソームに結合して影響を及ぼす機構
- 矢島 成人 ヒストンバリエントH2A.Bがヌクレオソーム中で交換される機構の解析

小林 正和 研究室<http://www.eb.waseda.ac.jp/kobayashi/>

- 小高 圭佑 サファイア基板上ZnTe薄膜成長におけるバッファ層堆積過程の解析とZnTe薄膜の結晶性改善
- 桜川 陽平 Cu₂Te中間層の形状がCuGaTe₂の結晶性や表面形態に与える影響探査
- 瀧 駿也 ナノ粒子塗布法によって作製したCu₂ZnSn(S,Se)₄太陽電池光吸収層の特性改善

柴田 重信 研究室<http://www.waseda-shibatas.com/>

- 岩見 志保 トリプトファン添加餌の摂取タイミングがマウス海馬モノアミン量およびリズムに与える影響
- 小島 修一 非活動期の食餌がマウス骨格筋の萎縮及び肥大に及ぼす影響に関する研究
- 西村裕太郎 社会的時差ボケマウスモデルの作成と特徴の評価
- 福澤 雅 夜食症候群モデルマウスの確立と時刻特異的うつ様行動に関する検証
- 本橋 弘章 アデニン誘発性慢性腎臓病モデルマウスの概日時計解析
- 安田晋之介 人に供する種々の食事がマウスの末梢時計に与える影響

宗田 孝之 研究室

- 江尻 悠真 ロバストな爪部悪性黒色腫診断支援システムの開発
- 鎌形 将太 主成分分析を用いた重量指掌紋の分離
- 野口 遼介 非侵襲的メラノーマ診断支援システムの開発：メラノーマの領域指定
- 松本 直也 ZnOバルクマイクロキャビティ構造における励起子ポラリトンの寿命
- 横岡 嵐 HSIによる白色人種の悪性黒色腫の機械診断精度の検討

- 高松 敦子 研究室** <http://www.eb.waseda.ac.jp/takamatsu/>
 佐藤 滉大 粘菌ネットワークにおけるエネルギー消費最適化のモデル
 染谷 洋輔 マウス概日時計におけるストレス応答の数理モデル構築
 平 裕介 接触抑制を考慮した数理モデルによる細胞増殖と創傷治癒時の細胞運動の効果
- 浜田 道昭 研究室** <http://www.f.waseda.jp/mhamada/>
 有薗 優太 階層隠れマルコフモデルを用いたクロマチン状態の分類
 岡田 航 RNA-seqデータを利用したarcRNA候補配列の選定及び候補/非候補配列群の比較解析
 武田 芽衣 last-trainを用いたPAR-CLIPのためのマッピングパラメータの推定
 武田 悠希 latent feature modelを用いたヒストン修飾機構の解析
 千島 崇史 lncRNAの組織特異性に関するTransposable Elementの同定
 三品 気吹 加法準同型暗号を用いたprivacy-preserving profile HMMによるプライバシー保護ゲノム解析
- ZHU, Zhu The relationship between cancer and lncRNA
- 林 泰弘 研究室** <http://www.hayashilab.sci.waseda.ac.jp/hayashi/>
 金子 曜久 PV連系配電系統におけるセンサ開閉器計測情報を活用したLDC制御パラメータ整定高度化手法に関する研究
 黒羽 亮一 設置環境特性を考慮した家庭用空調機器の運転計画決定手法の開発
 小林 将矢 電力予測の不確実性を考慮したLVRにおける電圧制御パラメータ決定手法に関する研究
 成瀬 裕矢 PCSによるPV出力抑制待機が配電系統および需要家へ与える影響の定量的評価に関する研究
 宮澤 歩夢 機器別消費電力推定の精度向上を目的とした補助情報を活用した非負値行列因子分解手法の検討
- 牧本 俊樹 研究室** www.eb.waseda.ac.jp/makimoto/
 尾高 拓弥 RF-MBE法で成長したGaAsNの構造特性・光学特性に関する研究
 黒澤 拓也 太陽電池応用に向けたGaAsNの光学的特性に関する研究
 椿 康平 InGa_N系材料の電気的及び構造的特性に関する研究
 鶴谷 直樹 RF - MBE法で成長したInGa_N系ヘテロ構造の電気的特性に関する研究
 萩原 碩 SiドープAlGa_Nにおける抵抗率の温度特性に関する研究
- 村田 昇 研究室** <https://www.murata.eb.waseda.ac.jp/>
 井村 惇平 時系列のデータ構造変化に対応したt-SNEの提案
 岩崎 泰士 部分観測されたスパイクからのニューロン間の結合推定
 岩渕 陸 近傍領域を拡張したlocal metric learningによる頑健な電力・給湯需要予測
 關 翼人 複数の距離計量を用いたk-近傍推定のための距離学習
 松原 拓央 積分表現理論と再生核理論に基づくニューラルネットワークの求積法
 張 一東 マルコフ連鎖モンテカルロ法を用いたオンラインレビューの良さの推定
- 柳谷 隆彦 研究室** <http://www.eb.waseda.ac.jp/yanagitani/>
 佐野 耕平 ScAlN圧電厚膜を用いた40-80 MHz帯高効率超音波トランスデューサ
- 若尾 真治 研究室** <http://www.eb.waseda.ac.jp/wakao/>
 内山 卓也 領域法と境界積分法の併用による電磁界解析の高度化に関する研究
 梶ヶ谷 尚之 Just-In-Time Modelingを用いた実負荷電流予測に関する研究

- 神谷 剛志 磁気回路最適化設計におけるMAMを用いた探索空間の拡張
 角谷 昌恭 次世代グリーン基地局における複数基地局の統合制御に関する基礎的研究
 若山 裕綺 磁界解析における局所展開要素法の基礎的検討
- 渡邊 亮 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/watanabe/>
 熊澤 遼 RGB-Dカメラを用いた路面電車進路決定システムの構築
 篠田 圭介 ホバリング動作点近傍におけるクアドロータ型UAVのシステム同定およびモデル誤差抑制性能を考慮した制御系設計
 高原 章央 EVへの買替えとV2Hの導入に対する経済性の評価
 刀根 諒 駅ホーム端事故防止のための深度カメラを用いた危険度判定
 曲山 竜一 熱鬧圧延Run Out Tableの空間分割に基づく冷却速度を考慮した温度制御
 山迫 光起 乗務員数を指定した鉄道乗務員スケジュールの自動作成
 山本 貴輝 人体モデルを用いた快適な服装提案および熱中症予防のための人体モデル拡張

<情報理工・情報通信専攻、情報理工学専攻*>

- 石川 博 研究室 <http://hi.cs.waseda.ac.jp/index.php/ja/>
 北川竜太郎 深層強化学習を用いた複雑な環境下でのエージェントの最適行動の学習
 佐々木一真 全層畳込みニューラルネットワークを用いた線画の自動修復
 高岡 俊哉 医用画像に対してスーパーボクセル単位での学習及びセグメンテーションを行うことによる精度の向上
 山口 修平 月面地形の特徴を利用したレジストレーションによる月面形状の復元
- 上田 和紀 研究室 <http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/>
 小山 峻平 制約階層に基づくハイブリッドシステムモデリング言語 HydLaの静的誤り検出手法
 坂爪 裕也 グラフ書換えモデル検査のための差分適用グラフ同型性判定における基本閉路長削減手法
 恒川雄太郎 グラフ書き換え言語LMNtalによる容易に拡張可能なモデル検査器の実装
 別納 健市 多数の離散変化を伴うハイブリッドシステムに対するループ検出を通じた解析
 松澤 望 Incremental Pattern Matchingによる階層グラフ書換え言語LMNtalの高速化
- 笠原 博徳 研究室 <http://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp/>
 安藤 和将 可変長配列を含むMATLABアプリケーションの自動並列化
 池 謙一郎 L2最小二乗学習を用いたグリッドサーチプログラムのOSCARベクトルマルチコアプロセッサでのシミュレーション
 狩野 哲史 OSCARベクトルマルチコアアーキテクチャシミュレータの評価環境構築と性能評価
 田中 浩貴 道路交通シミュレーションの高速化
- 甲藤 二郎 研究室 <http://www.katto.comm.waseda.ac.jp/>
 村岡 眞伍 OtoComplete : 「未来が見える楽器」の実現に向けた候補提案型作曲支援ソフトウェアの提案
 今金健太郎 低遅延マルチメディア処理のための仮想クラウド基盤を活用したエッジクラウドシステムに関する検討
 雑賀新太郎 CUサイズ拡大及びIntra/Inter予測モード切替による8K映像におけるH.265/HEVC符号化画質改善

- 坂牛 和里 高品質・低通信量な監視映像システムのためのビットレート制御及び鮮明化制御
- 高橋 沙季 CNNを用いた画風変換による画像鮮明化および物体検出精度改善
前田 泰彰 NDNを用いたBlockchainシステムに関する一考察
- 亀山 涉 研究室 <http://www.km.comm.waseda.ac.jp/>
河内 瞭彦 生体情報を用いた動画遅延時のQoE推定に関する研究
橋本 稜平 鼻部皮膚温度を含めた生体情報による映像視聴者の感情推定手法の提案
傳 櫻 マルチモーダル生体指標を用いた映像視聴者の情動分類および推定に関する研究
- 吉田 真高 楽曲聴取中の基礎律動と主観評価および聴取楽曲との対応に関する研究
LIU, Xiasi Predicting User's Next Place by User's Attributes and Trajectories
- 木村 啓二 研究室 <http://www.apal.cs.waseda.ac.jp/>
白川 智也 階層アジャスタブルブロックを用いた自動マルチコア・ローカルメモリ管理とその性能評価
花田 裕貴 鉄道車両トンネル突入解析向けソフトウェアのOSCAR自動並列化コンパイラによる高速化
林 綾音 大規模ノード数のコンピュータシステムにおけるネットワーク部の電力シミュレーションに向けたメモリアクセスパターンの生成
宮田 仁 OSCAR自動並列化コンパイラによるローカルメモリを利用したクラスタ構成を持つアーキテクチャ上での車載制御・認識アプリケーションの高速化
- 後藤 滋樹 研究室 <http://www.goto.info.waseda.ac.jp/index-j.html>
阿部 航太 畳み込みニューラルネットワークによるTor上の匿名Web通信の識別
喜入 亮 Paragraph Vectorによる悪性JavaScriptの検知法
野口 大貴 パケット到着間隔に基づくDRDoS攻撃の検知法
- 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
赤川 優斗 End-to-end学習を部分的に利用した多人数会話システムアーキテクチャ
浅野 秀平 位置変化に頑健なAttention付きConvolutional Neural Networkの提案
金田健太郎 語義・概念の分散表現の有効性の検証と適用範囲の拡張
菊池康太郎 辞書定義文を用いたゼロショット物体認識
- 酒井 哲也 研究室 <http://www.f.waseda.jp/tetsuya/>
ZENGL, Zhaohao Towards Automatic Evaluation of Customer-Helpdesk Dialogues
井関 大和 短期のネット人狼ゲームにおける機械学習手法の適用と改善
川崎 真未 放棄セッションにおけるユーザ操作に着目したモバイルバーティカル順位付け
玉置 賢太 Classifying Community QA Questions That Contain an Image
範 一萌 Towards Effective Web Search by Weighting Fields via Relevance Feedback
李 凌濤 Acceleration and Self-agreement: An initial investigation into a Relevance Assessment Log
- GUAN, Jun Nugget-based Celebrity Summarization and Semi-Automatic Nuggetization
河東 宗祐 コミュニティ QA 検索におけるニューラルネットワークを用いた手法と単語マッチングを用いた手法の比較と分析

佐藤 拓朗 研究室

SAPKOTA, Mahendra
HUMRAZ, Omid jan
WANG, Bochen
ZHANG, Lu

嶋本 薫 研究室

大河内志彦
坂本 祐基
GOSWAMI,
Meghalee

<http://www.sl.comm.waseda.ac.jp/>

電離層新シンチレーションにおける信号強度の時間的変動予測に関する研究
端末間通信を用いた28GHzにおける携帯端末通信についての研究
A unique power control algorithm in dense networks using game theory

DAWARI, Bikash

Dynamic power allocation method for parallel interference cancellation based NOMA receiver

LIU, Chenlu

Dynamic power allocation method for parallel interference cancellation based NOMA receiver

WANG, Huan

Cooperative Traffic Light Controlling Based on Machine Learning and A Genetic Algorithm

菅原 俊治 研究室

飯嶋 直輝
井手 理菜

<http://www.isl.cs.waseda.ac.jp/>

希望順位戦略を考慮した効率的なタスク割り当て手法の評価
カメラ情報を活用したエレベータ群管理システムにおける乗客の待ち時間短縮化

大塚 知亮
湯徳 尊久
吉村 祐

複雑ネットワークにおける強化協調期待戦略による協調の拡散
マルチエージェント探索問題におけるフィルタリングと粗視化を用いた強化学習
通信制限のある複数エージェントの協調巡回清掃問題における冗長性を減らす手法の提案

高畑 文雄 研究室

伊藤 雅秋
佐藤 蓮

<http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp/>

フェージング環境下におけるポーラ符号の演算量削減に関する研究
相関伝搬路と各種ユーザ配置におけるMU-MIMO ダウンリンクの特性評価と設計に関する研究

馬場健太郎
福田 太

複数基地局間協調送信制御に関する研究
適応フィルタによるガードバンド外挿処理を用いたMU-MIMO CSIフィードバック方式に関する研究

田中 良明 研究室

亀田 峻太

<http://www.tanaka.giti.waseda.ac.jp/>

アドホックネットワークにおける宛先位置推定を利用した階層化 Opportunistic Routing

谷口 文隆
CHEN, Ting song

移動通信サービスにおけるMNOとMVNOのユーザ行動の差異に基づくユーザ誘導
A Multi-Signal Integrated Method to Improve Indoor Monitoring and Positioning for Elderlies

JAVVAJI,
Nava krishna chaitanya

Secure and Timely Flawless Handover in LTE Self-Organized Network

戸川 望 研究室

岩名地良太
河野 圭亮

<http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/>

建物構造情報とセンサを用いた屋内歩行者向け位置測位に関する研究
腕時計型ウェアラブル端末のセンサと略地図を使用した歩行者向けナビゲーションに関する研究

- 矢野 椋也 眼鏡型ウェアラブル端末を用いた歩行者ナビゲーションの研究—ランド
マーク確認とPDR手法、階層判定手法—
- 於久 太祐 スキャンシグネチャを用いた暗号・ハッシュ回路に対するスキャンベース
攻撃に関する研究
- 百瀬 凌也 Bluetoothビーコンの近接度を用いた安定した屋内測位手法
- 中里 秀則 研究室** <http://www.nz.comm.waseda.ac.jp/>
伊勢 文貴 情報指向ネットワークにおけるモビリティ通信の改良
海堀 弘太 NDNにおける拡散現象を利用したInterestパケット送出レート削減法
NIU, Wuhong Self-cleaning Breadcrumb Policy in Cache Network
WU, Yun bin Research on performance of cache policy in CCN
SIDDIQUE, LCD-Based Probabilistic Caching for Information Centric Networking
Abdul milad
- 中島 達夫 研究室** <http://www.dcl.cs.waseda.ac.jp/>
赤崎 日菜 拡張現実感を用いた低認知負荷情報提供エージェントの提案と評価
入江 啓介 ヘッドマウントディスプレイを用いた拡張現実サービスにおけるプライバシー
シー・ポリシー表示手法の提案
高橋萌奈美 望ましい食行動を支援する対話型共食エージェントに関する研究
山田 雄希 時間概念を導入した分散型台帳技術に関する研究
具島 航太 仮想性を内包するInternet of Thingsサービスのためのデザインスペース構築
- 深澤 良彰 研究室** <http://www.fuka.info.waseda.ac.jp/>
小池 遼平 定理証明技術を用いたソースコードの補完手法に関する研究
惣津 美穂 制御工学と自己適応システムを組み合わせるための制御器作成数最適化に
関する研究
中村 史門 入力再利用型操作手順提示システムの自動生成に関する研究
西田 和馬 アプリケーションのレビュー解析を用いたWebサービス選択アルゴリズムの推薦
- 前原 文明 研究室** <http://www.waseda.jp/sem-maehara/>
栗原 直己 UCAアンテナによるOAM信号の伝送特性に関する研究
齋藤 周平 誤り訂正を考慮したSC-FDEのビット誤り率の理論解析に関する研究
塩沼 健司 ソフトウェア無線機への誤り訂正符号化シングルキャリア変調の実装に関
する研究
菅沼 碩文 MU-MIMO THPのシステム容量の理論解析に関する研究
蛭間 信博 MU-MIO-OFDM THPにおける周波数相関を用いたオーダリング処理コスト
削減法に関する研究
新保 薫子 高いシステム容量とユーザ間の公平性の双方を実現するMU-MIMO THPと
スケジューリングの連携法に関する研究
- 森 達哉 研究室** <http://nsl.cs.waseda.ac.jp/>
張 曙光 ハイブリッドアプリの特性を悪用したりパッケージ攻撃の評価
星野 遼 短縮URLサービスの実態調査
水野 翔 セキュリティインシデント対応に向けたトラフィック自動分類システム
- 山名 早人 研究室** <http://www.yama.info.waseda.ac.jp/>
馬屋原 昂 メニーコア・共有マシンにおけるスケーラブルなメモリアロケータ

- 滝川 真弘 特定分野における単語重要度計算手法の提案と短文からの著者専門性推定への適応
- 田島 太一 オンライン型深層強化学習を用いた金融商品のポートフォリオ管理戦略手法の提案
田中 博己 MAP推定を用いた歩行者の位置情報予測—POI推薦を目的として—
森山優姫菜 シーケンス情報を用いて幾何学の手書き解答データを解答パターンに分類する手法
HE, Yixuan VPresentationHelper - A presentation practice application in VR
- 鷺崎 弘宜 研究室 <http://www.washi.cs.waseda.ac.jp/>
野口 直寛 Identifying Inter-organisational Misalignment of Business Strategies Using Interpretive Structural Modelling
- 志村千万輝 Identifying and Improving Problems and Risks caused in Business Strategy and Ensuring Consistency between Business Requirements and System Requirements
- 首藤 優志 RELATIONSHIP BETWEEN THE FIVE FACTOR MODEL PERSONALITY AND LEARNING EFFECTIVENESS OF TEAMS IN THREE INFORMATION SYSTEMS EDUCATION COURSES
- 角田 武人 仕様書のメトリクスとソフトウェア品質の実証的研究
横井 泰佑 The effect of sharing programs using programmable robot for introductory of programming
- HARIS, Ali sajjad Systematic Review of Utilized ICTs in Quality Assurance and Accreditation of Higher Education and A Case Study of a Developing Country
- HUSEN, Jati hiliamsyah Improving GQM+Strategies with Balanced Scorecard's Perspective
XIA, Tian CSPM: A Metamodel for Security and Privacy Knowledge in Cloud Service

- 渡辺 裕 研究室 <http://www.ams.giti.waseda.ac.jp/>
加藤 君丸 姿勢情報を用いたカメラ映像からの歩きスマホ検出
高木 政徳 姿勢情報を用いた自転車選手識別手法
渡部 宏樹 DNNを用いたペット顔検出・識別手法
NGENO, Research on Ship Classification using Faster Region Convolutional Neural
Kipkemoi japhet Network for Port Security

＜電子物理システム学専攻＞

- 宇高 勝之 研究室 <http://www.f.waseda.jp/utaka/>
石川 敦 横モード間干渉型シリコン光スイッチの検討
江間 絢生 ポリマー材料を用いた2次元4×4マツハツエンダー型光スイッチの低消費電力化のための検討
末廣 大輔 偏光無依存なSi光スイッチの作製及びスポットサイズ変換器の検討
丹所 祐貴 二重反射ポリマー導波路型クレッチマン表面プラズモン共鳴センサを用いたグルコース検出の検討
松井 信衛 高機能光集積素子のための量子ドットバンドギャップ制御技術の研究
- 川原田 洋 研究室 <http://www.kawarada-lab.com/>
工藤 拓也 窒素インプラを用いた2DHGダイヤモンドMOSFETのしきい値制御
畢 特 大電流横型Diamond FETを用いたCascode及びInverter性能向上評価
日出幸昌邦 単結晶ボロンドープダイヤモンドを用いた超伝導量子干渉計の開発

- 牟田 翼 縦型2DHGダイヤモンドMOSFETの作製と構造の検討
山野 颯 ダイヤモンド中の電子スピンをを用いたナノスケール量子センシング
- 木村 晋二 研究室 <http://www.myanagi.cs.waseda.ac.jp/top/>
堀 翔真 エッジ方向を考慮した任意倍率可能な画像拡大補間手法に関する研究
又吉 康雅 素子特性を考慮した並列プレフィックス加算回路の消費エネルギー削減に関する研究
森田 朋暁 FFT回路のモノリシック三次元LSI設計に関する研究
- 小山 泰正 研究室 <http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/>
田中 亮介 Al-Mn-Si合金における τ 8構造相の結晶学的特徴
遠藤 智貴 強相関電子系Ca_{1-x}LaxMnO₃のx=0.25組成付近における軌道整列状態
熊田 隆信 Zn-Mg-Ho合金系における三次元準結晶とMg₅₁Zn₂₀構造相の結晶学的特徴
嶋崎 里奈 強相関電子系Sr_{1-x}NdxMnO₃のx=0.45組成付近における軌道整列状態
林 和欣 Al-Cu-Fe合金系における三次元準結晶と λ 構造相との結晶学的相関
樋口 響 Zn-Sc合金系における近似結晶Zn₆ScおよびZn₁₂Sc相の結晶学的特徴
吉田 春香 マルチフェロイクス物質Bi_{1-x}LaxFeO₃に出現する整合・不整合反強誘電状態
- 史 又華 研究室 <http://www.islab.cs.waseda.ac.jp/>
川合 洋平 人体を振動源とする圧電素子を用いたエネルギーハーベスティングにおける回路設計に関する研究
中垣 直道 ソフトエラー検出による回路の高信頼化に関する研究
早水 謙 エラー距離を考慮した概算加算回路の設計に関する研究
- 庄子 習一 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-shoji/>
川久保 涉 マイクロ流体デバイスを用いたプロモ基付加操作に関する研究
高 振涛 ドットレールを用いたマイクロ液滴ソーティングデバイスの作製
登 惇輝 3次元マイクロ構造を活かした機能性有機ELデバイスの開発
山崎 颯 マイクロ流体液体クロマトグラフィに向けたDeep-RIEを応用したポーラスピラーアレイの作製
- 谷井 孝至 研究室 <http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/>
アブデルガファ イオン注入法により導入されたSi中ErO複合体の3次元アトムプローブ測定と蛍光特性評価
愛満 ターレック
岡田 拓真 量子レジスタ応用へ向けたダイヤモンド中NVセンターの配列作製とその測定装置の構築
加賀美理沙 イオン注入を用いたダイヤモンド中SiVセンター形成とその生成収率のエネルギー依存性評価
加藤 佑拓 高分解能NMR測定に向けたダイヤモンド中単一NVセンター配列と微小容器配列の一括作製プロセスの構築と評価
野田 和希 マイクロバターン上の神経細胞回路への局所的電気刺激導入と活動解析に関する研究
服部 晃平 フィードバック接続を有する単一ニューロンの自発活動に関する研究
若林 洸 マイクロ構造に対する接着差を利用した癌・正常細胞判別法の実験的検討
- 柳澤 政生 研究室 <http://www.islab.cs.waseda.ac.jp/wp/>
大滝 昌弥 小型UAVを用いた屋内環境における自己位置推定精度向上手法に関する研究
佐藤 淳紀 表面筋電信号を用いた深層学習に基づく手指動作識別手法に関する研究

葉 静浩 低消費電力・小回路面積 F I R の設計に関する研究

山中 由也 研究室 <http://www.yamanakalab.sci.waseda.ac.jp/>
足立 亮太 長距離引力相互作用を持つ凝縮体の安定性評価
池田 祐樹 クラスタ Gutzwiller 近似を用いた拡張 Bose-Hubbard 模型の解析
風間 勇輝 α 凝縮模型を用いた質量数 12 の炭素の励起準位の導出
桂樹 玲 α 凝縮模型による ^{12}C 原子核および $\text{N } \alpha$ 原子核の解析
田中 淳也 非一様冷却 Fermi 原子系における gap 方程式

山本 知之 研究室 <http://www.cms.sci.waseda.ac.jp/>
相田 浩嗣 Er, Yb 共添加 CaMO_3 (M=Zr, Sn) のアップコンバージョン発光特性の評価
張江 貴大 X線光電子分光法を用いた熱酸化 SiO_2 膜における自己帯電補償メカニズムの解明
福井 啓太 HAp/ β -TCP 複合体における Cu の固溶機構と骨形成能評価
山口 記功 第一原理計算を用いた絶縁破壊電界の推定とその SiC 多形への応用

吉増 敏彦 研究室 <http://www.f.waseda.jp/yoshimasu/>
佐藤 宏哉 新規バイアス回路とマルチカスコードを用いた 28GHz 帯パワーアンプに関する研究
山口 諒 FET に並列に可変容量を接続したマイクロ波帯低位相雑音 LC 発振器 IC に関する研究

渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>
小川 雄己 PID 法による粒子ベースシミュレーションの電極電位制御に関する研究
安部 拓也 線分ベース SLAM を用いたカメラ搭載ロボットの環境情報取得に関する研究
小笠原成崇 分子動力学法を用いた IV-IV 族混晶の熱伝導率計算に関する研究
中川 宣拓 分子動力学計算による仮想金属酸化物モデルを用いた high-k/ SiO_2 界面ダイポール形成機構に関する研究
中根 滉稀 ニューラルネットワークを用いた high-k/ SiO_2 界面分極の予測に関する研究
依田 大輝 垂直離着陸が可能な羽ばたき型ロボットの開発

＜ナノ理工学専攻＞

川原田 洋 研究室 <http://www.kawarada-lab.com/>
五十嵐圭為 SU-8 保護膜を利用したダイヤモンド SGFET の作製及びゲート接地回路での pH 感応性
加藤かなみ ラジカル照射によるダイヤモンド表面窒素化の分析及び応用

庄子 習一 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-shoji/>
徐 秉陽 高分解能 TEM 観察に向けたダイヤモンド薄膜の作製に関する研究
須崎 遙 次世代 5G 無線通信に向けた $\text{LiTaO}_3/\text{Quartz}$, $\text{LiNbO}_3/\text{Quartz}$ SAW 基板の作製

渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>
大場 俊輔 ナノワイヤ構造を用いたシリコン熱発電素子の開発と性能評価に関する研究

<数学応用数理専攻>

大石 進一 研究室

<http://www.oishi.info.waseda.ac.jp/members/index-j.html>

木村 翔矢

拡散項を伴う定常Lotka-Volterra方程式のDirichlet境界値問題の解に対する精度保証付き数値計算法に関する研究

柏木 雅英 研究室

<http://www.kashi.info.waseda.ac.jp/>

宮崎 敏文

精度保証付きdouble-word演算の高速化と安全性に関する研究

浅見 和哉

区間演算における可変長指数部浮動小数点数の利用

齊藤 優里香

KKT方程式を用いた最適化問題に対する精度保証付き数値計算

佐々 文碩

行列指数関数の精度保証

高橋 侑希

長方形領域における精度保証付き二重積分—各公式の性能比較—

橋本 崇希

複素Gamma関数の精度保証付き数値計算

<表現工学専攻>

及川 靖広 研究室

<http://www.acoust.ias.sci.waseda.ac.jp/>

井上 敦登

Visualization system for sound field using see-through head-mounted display

齊藤 良二

Three-dimensional noise and spatial mapping system with aerial blimp robot

立川 智哉

Microphone array signal processing via convex optimization

卒業おめでとうございます <学部>

<電気・情報生命工学科>

- 石山 敦士 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ishiyama/>
 星野 慧 増田 大輝 稲垣 善太 岡崎 泰臣 尾下 遙
 金原 徹郎 柴田真帆子
- 井上 真郷 研究室 <http://www.inoue.eb.waseda.ac.jp/>
 石塚 航希 伊藤 駿汰 國井 里紗 久保田菜々子 西富 航
 長谷川文弥
- 岩崎 秀雄 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-iwasakilab/index.html>
 江蔵 隼弥 津江 瑞季 戸澤 圭佑 中村 嘉博 松並 由佳
 三森はるか 吉田 大祐
- 岩本 伸一 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/iwamoto/>
 荻田準一朗 末木麻祐子 高橋 真人 水上 瑛太 山田 晋也
- 内田 健康 研究室 http://www.uchi.elec.waseda.ac.jp/index_j.html
 張 宇萌 堺 一眞 信田 翔平 向山 千秋 吉田 康佑
 李 泰植
- 大木 義路 研究室 <http://www.f.waseda.jp/yohki/>
 伊東清太郎 内田 真生 荻島 敬哲 小池祐美恵 沢田 颯
 羽田 潤平 森 啓吾 山口 輝
- 岡野 俊行 研究室 <http://www.okano.sci.waseda.ac.jp/>
 赤間弘太郎 内宮 悠吾 大塚 浩晨 奥村 浩之 東海林洋輔
 竹村 唯 永野 杜 宮崎 崇之
- 木賀 大介 研究室 <http://www.f.waseda.jp/kiga/>
 岩下 義明 榎本 利彦 中川絵莉子 山岡 智浩 山中 湧達
 吉田 猛
- 胡桃坂 仁志 研究室 <http://www.kurumizaka.sci.waseda.ac.jp/>
 後 雄大 島林 秀伎 相原 真弥 石井 初芽 粉間 信樹
 黒田 明里 田中 直紀 服部 雅也
- 小林 正和 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/kobayashi/>
 上西 士門 池野明日香 石上 健太 太田 望未 関小田明里
 藤谷 芳樹 吉野 文也
- 柴田 重信 研究室 <http://www.waseda-shibatats.com/>
 田中友一朗 尾崎真実帆 志賀 一登 高橋 健吾 田村 好
 濱 香樹 廣岡 里菜 渡邊 文
- 宗田 孝之 研究室
 深栖 拓 本城 智代 神原 憧 鈴木 百合 新山 雄希

野口 高司	渡辺 稜也					
高松 敦子 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/takamatsu/					
藤森 玄	稲井 由美	稲田 英幸	岩崎 真依	尾方健太郎		
長谷川 将	和田 優也					
武田 京三郎 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/takeda/					
岡下 尚暉	黒岩祐一郎	小路 謙介	佐藤万紗子	曹 云賀		
高橋 由弦	松尾 星					
浜田 道昭 研究室	https://www.f.waseda.jp/mhamada/					
村上 弘将	菊池 亮介	石川 詩苑	石田 遼我	深見 匠		
松谷 太郎	宮原 雅人	望月万里名				
林 泰弘 研究室	http://www.hayashilab.sci.waseda.ac.jp/hayashi/					
福井 雅斗	浅見拓一知	大久保里矩	金子奈々恵	菊地 亜希		
土屋 祐太	富田 康平	三上 大智				
牧本 俊樹 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/makimoto/					
真辺 寛己	井上 洋輔	今井 尚弘	藤森 郁男	逸見 真広		
村田 雄輝	持田 直輝	山木 大樹	米田 峻平			
村田 昇 研究室	https://www.murata.eb.waseda.ac.jp/					
太田 裕貴	五十嵐里紗	岡戸 優武	金原 秀明	亀山 貴人		
土屋 健吾	向井 滋春					
柳谷 隆彦 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/yanagitani/					
猪股あすか	谷川 郁	野田 隆太	平澤 直人	正宗 千明		
間島 毅	松田 友佳					
若尾 真治 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/wakao/					
北畠 成顕	村上 雄基	浅井 健至	桂川 真子	川野辺章人		
川俣 良太	草深あやね	日口 舞	横山 拓哉			
渡邊 亮 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/watanabe/					
内出 貴之	土屋 丈太	豊永 悠太	中島 悠希	平野 拓人		
守 浩由	谷高 大貴					

<情報理工学科>

石川 博 研究室	http://hi.cs.waseda.ac.jp/index.php/ja/					
尾形 亮二	塚越 裕太	門馬 生空	鄭 澤	高木 萌子		
入江 克 研究室	http://www.f.waseda.jp/fbx3/index_ja.htm					
菅 珮芸						
上田 和紀 研究室	http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/					
本多健士郎	佐藤 柁史	渋谷 隆弘	神谷 渉太	齋藤 諒人		
内田 真人 研究室	http://www.uchida-lab.jp/					
土井 裕貴	小川 翔大	高橋 時生	中野 翔	長谷川陽平		
福士 直翼						

- 小川 哲司 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
- 岡林 佳吾 沖本 祐典 高見 一生 土屋 平
- 笠原 博徳 研究室 <http://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp/>
- 板橋 聖 柏侯 智哉 清水 裕貴 白鳥紗瑛子 藤本 圭之
- 高橋 健 高橋 聖智 熊見 弘一
- 甲藤 二郎 研究室 <http://www.katto.comm.waseda.ac.jp/>
- 服部 勇大 一原 賢吾 篠原 裕矢 河上 晃司
- 亀山 渉 研究室 <http://www.km.comm.waseda.ac.jp/>
- 多田 真聡 坂本 貴幸 八巻 櫻
- 木村 啓二 研究室 <http://www.apal.cs.waseda.ac.jp/>
- 玉川翔太郎 高萩龍之介 阿部 佑人 飯塚 勇太 牧田 哲也
- 川角 冬馬
- 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
- 谷口祐太郎 中西 真央 小野 喜己 瀬戸山幸太郎
- 後藤 滋樹 研究室 <http://www.goto.info.waseda.ac.jp/index-j.html>
- 林 一渡 平井 美希
- 酒井 哲也 研究室 <http://www.f.waseda.jp/tetsuya/>
- 津崎 捺美 OHASHI, Tatsunori 陶 思捷 加藤 広雅 呉越 思瑤
- 小島 智樹 村田 憲俊 李 卓優 LIU, Hsin-Wen 鹿志村 諒
- XIAO, Peng
- 佐藤 拓朗 研究室 <http://www.sato.comm.waseda.ac.jp/>
- 市瀬獎一郎 真田 健太
- 嶋本 薫 研究室 <http://www.sl.comm.waseda.ac.jp/>
- 高島 美実
- 清水 佳奈 研究室 <http://www.cbio.cs.waseda.ac.jp/>
- 小久保剛基 國井 芽 新出 拓己 岩田 大輝 櫻井 碧
- 中島 智樹
- 菅原 俊治 研究室 <http://www.isl.cs.waseda.ac.jp/lab/>
- 桑原 慧子 三浦雄太郎 木村 苑子 舟戸 峻也 本田 慧悟
- 村中 慧 茂木 惟人
- 高畑 文雄 研究室 <http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp/>
- 永池 浩季
- 田中 良明 研究室 <http://www.tanaka.giti.waseda.ac.jp/>
- 小野 優香
- 戸川 望 研究室 <http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/>
- 石川 遼太 大場 諒介 西村 天晴 扇山 友彰
- 中里 秀則 研究室 <http://www.nz.comm.waseda.ac.jp/>
- 福井 準也 阿部倉 圭 大山 将輝 高宮 彰吾 平井 匠
- 中島 達夫 研究室 <http://www.dcl.cs.waseda.ac.jp/>
- 高木 晶平 朴 苾蕾 飯島 雅 追分 滉大 小宮 航亮

中田 尚紀	ZHANG, Tai li	ZHANG, Mingshu			
深澤 良彰 研究室	http://www.fuka.info.waseda.ac.jp/				
太田 光雅	佐山 大輔	道券 裕二	平田 篤己	真船 奈乃	
横小路高行	山内 皓太	DOLUDDA, David			
前原 文明 研究室	http://www.waseda.jp/sem-maehara/				
萩原悠久人					
森 達哉 研究室	http://nsl.cs.waseda.ac.jp/				
犬飼 貴之	武内 悠生	森 啓華	安松 達彦	笹崎 寿貴	
楠本 純也					
山名 早人 研究室	http://www.yama.info.waseda.ac.jp/				
真鍋 智紀	リ ナン	市川 朋輝	工藤 雅士	鈴木 拓也	
所 周平	田島 有紗	三島優理菜	QIAN, Jiayi	YASUMURA, Yoshiko	
鷺崎 弘宜 研究室	http://www.washi.cs.waseda.ac.jp/				
長谷川優太	南雲 宙真	石塚 凌	佐々木綾菜	笠原レミン	
野寄 祐樹	和田 直人	山田 龍平			
渡辺 裕 研究室	http://www.ams.giti.waseda.ac.jp/				
山下 拓朗	稻田 智仁				

<情報通信学科>

石川 博 研究室	http://hi.cs.waseda.ac.jp/index.php/ja/				
佐藤 良亮					
上田 和紀 研究室	http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/				
角谷 法彦					
小川 哲司 研究室	http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/				
富士川光希	藺部 藍	幸加木裕也			
甲藤 二郎 研究室	http://www.katto.comm.waseda.ac.jp/				
植村 理紗	岡野真由子	横山 怜汰			
亀山 涉 研究室	http://www.km.comm.waseda.ac.jp/				
外山 祐也	西口ひかり	渡邊 滉大	菅田 峻		
小林 哲則 研究室	http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/				
平川 幸司	島田 拓弥				
佐藤 拓朗 研究室	http://www.sato.comm.waseda.ac.jp/				
岡本 航輝	野崎 大地	村田 知謙	持田 透	山根 光	
相澤 亮太					
嶋本 薫 研究室	http://www.sl.comm.waseda.ac.jp/				
井桁 一樹	上原 裕貴	金子 尚史	萩原 涼太	功刀 紀樹	
山岡 雪乃					
高畑 文雄 研究室	http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp/				
杉野 裕幸	山崎 香織	米山みのり	井上 凌	岩崎 翔大	

北川 竜						
田中 良明 研究室	http://www.tanaka.giti.waseda.ac.jp/					
石田 翼 武 祐太	中村 光宏	林 佑紀	西部 星良			
戸川 望 研究室	http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/					
井上 智貴	宇佐見友理	三澤 大輝				
中里 秀則 研究室	http://www.nz.comm.waseda.ac.jp/					
酒寄 舜	石原 景太	井上 励				
前原 文明 研究室	http://www.waseda.jp/sem-maehara/					
小作 伸一	小島 和樹	水谷 亮太	山下 颯磨			
森 達哉 研究室	http://nsl.cs.waseda.ac.jp/					
飯島 涼	高森 宏亮					
渡辺 裕 研究室	http://www.ams.giti.waseda.ac.jp/					
稲田健太郎	梅田 聖也	赤塚 紘輝	矢野 仁愛	木村 凌太		

＜電子物理システム学科＞

宇高 勝之 研究室						
河村 拓哉	坂東 佑亮	伊澤 昌平	引間 大輔	堀川 玄馬		
山川 侑也						
川西 哲也 研究室						
宮路 泰輔	竹内 夏美	竹内 悠華	西村 政輝	三浦 哲哉		
宮澤 啓汰	望月 純					
川原田 洋 研究室	http://www.kawarada-lab.com/					
山本あおい	天野勝太郎	今西祥一郎	井山裕太郎	岩瀧 雅幸		
藪田 隆弘	堀川 清貴	矢部 太一				
木村 晋二 研究室	http://www.myanagi.cs.waseda.ac.jp/top/					
大川 和輝	藤井 堯彬	毛利 好陽	山脇 雅弘			
小山 泰正 研究室	http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/					
坂田 景哉	太田 俊	佐藤 優大	鈴木 夢乃	関 勇太		
前田 峻	三浦 慎平					
史 又華 研究室	http://www.islab.cs.waseda.ac.jp/					
尾崎 大祐	香取 良介	後藤 雅昌	田村 研人	中川 慶樹		
福田 溪	松本 渉					
庄子 習一 研究室	http://www.shoji.comm.waseda.ac.jp/					
大塚 茜里	笹川 健太	菅谷 拓央	藤原亜希子	三輪 慶人		
山田 紘右						
谷井 孝至 研究室	http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/					
石井 邑	魏 啓楠	黒飛 敦	佐藤 晃揮	永岡 希朗		
中西 彬	橋本 拓弥					
柳澤 政生 研究室	http://www.islab.cs.waseda.ac.jp/wp/					

青木 系展 荒古 龍一 鈴木 悠希 野見山滉史 林 芳樹
 山中 由也 研究室 <http://www.yamanakalab.sci.waseda.ac.jp/>
 チョウ ギイ 細井 麻帆 岩田 彬滉 蒲地 竜矩 佐久間啓輔
 寺内 博 新田 滉
 山本 知之 研究室 <http://www.cms.sci.waseda.ac.jp/>
 荒川 顕佑 石田 真規 磯村 亮太 牛丸 晃太 鈴木 雄大
 瀧 裕紀 西田 卓真 藤田 光 松本 絢音 丸茂 知徳
 吉増 敏彦 研究室 <http://www.f.waseda.jp/yoshimasu/jp/index.html>
 小野 直也 小川 友樹 北澤 洸希 守屋 洋祐
 渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>
 井上 彰人 岩城 慶 金丸 翔大 三川 莉奈 田 祐在
 武澤 宏樹 目崎 航平 津田 和瑛

<応用数理学科>

大石 進一 研究室 <http://www.oishi.info.waseda.ac.jp/members/index-j.html>
 高橋 一生 神宮司秀将 阿部真実佳 小林 早紀 原木 伸茂
 藤本 光留 松嶋 佑汰 三村 佳
 柏木 雅英 研究室 <http://www.kashi.info.waseda.ac.jp/>
 乗田 有咲 工藤 直輝 青木 柊 天ヶ嶋 悠 横田 旭

<表現工学科>

及川 靖広 研究室 <http://www.acoust.ias.sci.waseda.ac.jp/>
 大木 大夢 小林 憲治 竹内 大起 田中 菜摘 谷川理佐子
 蛭間 涼 星加 佑

2017年度博士号取得者

() 内は指導教員

《2017年度 電気・情報生命専攻》*リーディング理工学博士プログラム

- 加藤 大貴 (胡桃坂仁志) 新規クロマチン基盤ユニットの立体構造に関する研究
 鯨井 智也 (胡桃坂仁志) ヒストンバリエーションH3.Yを含むヌクレオソームの構造と機能に関する研究
 田口 裕之 (胡桃坂仁志) スクレオソームの構造安定性に関する研究
 篠崎 綾子 (柴田 重信) フラボノイド系化合物の体内時計に対するインビトロ評価と作用機序の解明
 喜久里浩之* (林 泰弘) Studies on Supply and Demand Side Energy Management in Low-Voltage Distribution Systems for Maximum Utilization of Photovoltaic Generation
 竹内 淨 (武田京三郎) 水素原子を介とした分子凝集機構に関する理論的研究
 石本 和之 (大木 義路) 配電線および需要家機器における雷被害の発生機構とリスク評価

《2017年度 情報理工・情報通信専攻》

- 齋藤 大輔 (鷺崎 弘宜) Study on the Learning Effects Based on Characteristics in Programming Learning Environments for Novice Learners
 SU, Yuwei (佐藤 拓朗) Study on the New Advanced Techniques in Free-Space Optical Communication Systems
 孫 博 (森 達哉) Discovering the Hidden Cyber Attacks: Machine Learning Based Approaches
 千葉 大紀 (後藤 滋樹) Internet Communications Data Profiling for Detection of Evolving Cyber Attacks
 高田 雄太 (後藤 滋樹) Analyzing Hidden Features of Web-based Attacks
 寺田晃太郎 (戸川 望) Floorplan-Aware High-Level Synthesis Algorithms and their Acceleration by Ising Computations
 中川 章 (甲藤 二郎) 動画像符号化の性能改善と実用化に関する研究
 中津川征士 (戸川 望) デジタル無線システム用高周波フロントエンドの高性能化・高機能化に関する研究
 畑田 充弘 (森 達哉) Toward Efficient Incident Handling Triage: Automated Threats Classification and Data-centric Talent Development
 長谷川洋平 (甲藤 二郎) Studies of High-Speed TCP/IP Data Transfer Techniques for Heterogeneous Networks with High-Speed Wireless Communications
 早野 真史 (菅原 俊治) 共同関係に基づく自律的組織化を利用した効率的な分散タスク割当手法の提案
 韓 正圭 (山名 早人) A Study of Familiarity Aware User Visit Pattern for Personalized POI Recommendation

《 2017年度 情報理工学専攻 》

ALIMUJIANG, Yasen Hypergraph-Based Modeling of Formal Systems Involving Name
(上田 和紀) Binding

《 2017年度 ナノ理工学専攻 》

EVI, Suaebah (川原田 洋) Functionalized diamond surfaces for DNA aptamer sensing of small molecules

新谷 幸弘 (川原田 洋) 多結晶ボロンドープダイヤモンド電解質溶液ゲートFET型化学センサに関する研究

SAMSOL BAHARIN BIN ABDULLAH High voltage field effect transistors via heteroepitaxial and polycrystalline diamonds

Mohd Syamsul Nasryiq (川原田 洋)

田中 大器 (庄子 習一) マイクロデバイスを用いた金属錯体含有蛋白質の合成及び結晶化に関する研究

付 偉欣 (庄子 習一) 真空紫外線を用いた先端機能性高分子材料の表面改質と接合

桑原 幸郎 (山中 由也) 非平衡場の量子論系の定式化および空間非一様系の繰り込み条件

橋本修一郎 (渡邊 孝信) シリコンナノ細線のニッケルシリサイド化速度論およびその熱電デバイスへの応用に関する研究

《 2017年度 電子物理システム学専攻 》

河野 翔 (谷井 孝至) 表面マイクロパターンを用いた神経細胞の形状および機能制御

《 2017年度 数学応用数理専攻 》

小林 領 (大石 進一) Studies on methods for verifying the accuracy of numerical solutions of symmetric saddle point linear systems

<受賞・褒章>

お知らせのあったものを掲載しています。(受賞時の学年を表記)

順不同

電気・情報生命工学科／電気情報生命専攻 教授 浜田道昭	平成29年度科学技術分野 文部科学大臣表彰若手科学者賞
電気・情報生命工学科 若尾研究室 学部4年 小浦直洋	平成28年度 電気学術奨励賞
電気・情報生命工学科 大木研究室 学部4年 中井 翠	平成28年度 電気学術女性活動奨励賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士2年 池野理沙、花田脩伍	IEEE DEIS日本支部 学生国際会議優秀論文発表
阪田 史郎氏 1974年電子通信学科卒	情報処理学会 2016年度功績賞
電気・情報生命専攻 胡桃坂研究室 修士2年 藤田理紗	新学術領域「生殖細胞エピゲノム」「ステムセルエイジング」「クロマチン動構造」3領域合同若手勉強会2017 ベストプレゼン賞
電気・情報生命工学科 小林研究室 助手 中須大蔵	第42回(2017年春季)応用物理学会 講演奨励賞

電気・情報生命専攻 村田研究室 修士2年 岩崎泰士	ニューロコンピューティング研究会 2017年Young Research Award
電気・情報生命専攻 林研究室 修士1年 釜壮一郎、東山和寿、谷 哲郎 学部4年 金子奈々恵、菊地亜希	電気学会 電力・エネルギー部門 IEEJ PES 2017年度YPC優秀発表賞
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 相原祐太 電気・情報生命専攻 林研究室 修士1年 濱 洗貴、内山慎距 学部4年 金子奈々恵	電気学会 電力・エネルギー部門 IEEJ PES 2017年度YPC奨励賞
早稲田大学 名誉教授 富永英義 1962電通卒	平成29年秋の叙勲 「瑞宝中綬章」
情報通信学科／情報理工・情報通信専攻 教授 鷺崎弘宜	早稲田大学ティーチングアワード (2016年度秋学期) 総長賞
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 井上真郷	早稲田大学ティーチングアワード (2016年度秋学期)
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 井上真郷	早稲田大学ティーチングアワード (2017年度春学期)
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 大木義路 教授 林 泰弘	2017年度早稲田大学リサーチアワード 大型研究プロジェクト推進
情報通信学科／情報理工・情報通信専攻 教授 鷺崎弘宜 電子物理システム学科／電子物理システム学専攻 教授 渡邊孝信	2017年度早稲田大学リサーチアワード 国際研究発信力
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士1年 飯塚亮太	2017年度放電学会年次大会 放電学会優秀論文発表賞
情報理工・情報通信専攻 木村研究室 修士1年 清水勇希	情報処理学会 DICOMO 2017 ヤングリサーチ賞 優秀論文賞
表現工学専攻 及川研究室 修士1年 野崎琴代	日本音響学会 第15回学生優秀発表賞
表現工学専攻 及川研究室 博士2年 石川憲治	日本音響学会 第42回栗屋潔学術奨励賞
表現工学専攻 及川研究室 博士2年 石川憲治	ICFD2017 Best Presentation Awards
表現工学科 及川研究室 学部4年 竹内大起	日本音響学会 第16回学生優秀発表賞
表現工学科 及川研究室 学部3年 升山義紀	日本音響学会 第16回学生優秀発表賞
表現工学科 及川研究室 助教 矢田部浩平	日本音響学会 第13回独創研究奨励賞板倉記念
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 相原祐太	電気学会 電力・エネルギー部門 IEEJ PES 電力技術・電力系統技術合同研究会 電力系統技術委員会 奨励賞
情報理工・情報通信専攻 教授 後藤滋樹	電子情報通信学会 通信ソサイエティ 第12回電子情報通信学会通信ソサイエティ論文賞 (Best Paper Award)
情報理工学科 後藤研究室 学部4年 千葉大紀	電子情報通信学会 通信ソサイエティ 第12回電子情報通信学会通信ソサイエティ論文賞 (Best Paper Award)

情報理工・情報通信専攻 教授 後藤滋樹	電子情報通信学会 通信ソサイエティ Internet Hall of Fame 2017(インターネットの殿堂)
情報理工・情報通信専攻 後藤研究室 修士1年 若林哲宇	情報処理学会 CSS2017 優秀論文賞
情報理工・情報通信専攻 後藤研究室 修士1年 若林哲宇	情報処理学会 CSS2017 学生論文賞
電子物理システム学科 川原田研究室 学部4年 今西祥一郎	第31回ダイヤモンドシンポジウム(2017年11月) ポスターセッション賞 優秀賞
電子物理システム学専攻 川原田研究室 修士2年 畢 特	NDNC2017:11th International Conference on New Diamond and Nano Carbons Best Poster Awards
ナノ理工学専攻 川原田研究室 博士3年 EVI Suaebah	NDNC2016:10th International Conference on New Diamond and Nano Carbons Young Scholar Award
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士2年 白水秀幸 電気・情報生命専攻 大木研究室 博士3年 黒田千愛	電気学会 優秀論文発表賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士1年 阿部 裕、兼子拓也	平成29年基礎・材料・共通部門大会 Young Poster Competiton 優秀発表賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士1年 兼子拓也	8th International Symposium on Electrical Insulating Materials Young Poster Presentation Award
電気・情報生命専攻 大木研究室 博士後期課程3年 黒田千愛	平成29年基礎・材料・共通部門大会 平成28年優秀論文発表賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 博士後期課程3年 黒田千愛	IEEE DEIS Japan Chapter Student Best Paper Presentation Award
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士1年 遠藤滉士	IEEE DEIS Japan Chapter Student Best Paper Presentation Award
電気・情報生命専攻 林研究室 博士3年 喜久里浩之 修士1年 内山慎距	電気学会 全国大会IEEJ PES 2017年度優秀論文発表賞
電気・情報生命専攻 林研究室 博士2年 赤木 寛	2017年 IEEE PES Japan Joint Chapter Student Best Paper Award (学生優秀論文賞)

2017年度就職状況

2017年度の就職活動を振り返って

電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 就職指導担当 教授

小林 正和、岡野 俊行、村田 昇



電気・情報生命工学科および電気・情報生命専攻では、例年どおり3名の教員が学生の就職活動の支援担当業務を担っております。おかげさまで、2017年度も本学科・専攻は300以上の企業様から求人依頼を戴きました。そのうち推薦制度によって学生を採用したいという依頼は290社を上回るものでした。就職活動をする学部学生と修士学生は120名弱ですので、まさに売り手市場の状態でした。



近年は毎年のように採用スケジュールが変更されていたので就職希望の学生も大変でしたが、担当教員側の体制も同様に苦勞が多かったです。2017年度卒業生に関しては前年と同じ採用スケジュールになったため、近年の就職支援活動の中ではある程度負荷が減った状態でありました。他方、企業側におかれましては状況変化に即し戦略的に様々な手法で学生にアピールする機会を創出されていますので、就職活動をしている学生にとって過剰サービスになっていないか憂慮してしまう機会も増えてきています。



例えば「インターンシップ」という、企業の様子を2週間程度かけて理解する実習制度があります。これは従来から大学も認可しているもので実習内容によっては単位認定も可能

です。この制度がカリキュラムを考える立場の意図とは異なったものになり、より就職活動に利用されるようになってきている感があります。口数が比較的少ない学生等、就職面談が苦手な学生にとっては長期にわたって企業側から評価してもらえるので、個性をアピールするのに有利だと考えられます。しかしながら長期にわたってチェックされるため、面談は得意だが身につけている能力が不十分な学生にとってはデメリットが多くなると感じます。「ワンデイインターンシップ」

や「オープンハウス」といった企画も近年盛んに開催されるようになってきました。短期間の実習、もしくは見学会という企画内容ですが、いずれも採用活動の解禁日前に情報提供の目的で開催されております。様々な企業からこれらの様々な情報が提供された(氾濫した)中で就職活動を行うことは、学生の立場で考えると大変なことであると想像されます。

おびただしい量の情報に適切に対応できるよう学科では12月からガイダンスを開始し、学校推薦制度や進学することのメリットデメリットなどについて説明をしております。また近年は専門の情報サイト会社、業界団体等から講師をお招きして学生への情報提供と意識付けを図っています。

また、学内ではいくつものチャンネルによって企業の合同説明会等が開催されております。しかしながら学科の学生に最も人気が高かったのはEWE主催による「交流会」だったようです。昼間の説明会はもとより、夕方の懇親会で希望企業のOB / OGとコンタクトを取っていたようです。同じ学科の卒業生が説明してくれるということで、就職活動をおこなっている学生も様々な内容について腹を割って相談できているようです。企業側もある程度早めに優秀な人材を確保したいこと、学科側も早期に就職活動を終了してほしいこと、両者の希望もあり4月には本格的な活動が行われ、早々に就職活動を終える学生もでていました。そして6月には相当数の学生の就職先が決まっていたようです。企業側の採用形態が多岐にわたってきたため、学生との意思確認が難しくなる場合も増えてきているようで、トラブルになりそうなケースが年々微増していることも事実です。

本年度の就職・進学状況の概要は近年の状況と大差がありませんでした。卒業研究に取り組んだ学部学生は151名、うち112名が大学院に進学し、より高レベルの学問を修める予定です。一方、大学院で修士論文に取り組んでいる学生は94名ですが、修士課程修了後に就職予定の学生は86名となっています。就職先はメーカーから医療・金融業界まで多岐に互っています。社会の複合的な発展に伴い本学科で受けた教育素養を持つ人材に対する人気が高いことの証左になっています。また企業側は積極的に医療・生命科学分野への展開を図っているため、これらの需用に対する人材の輩出も行えています。4月からは社会人になる学生の皆さんには就職活動で得た経験を活かしていただきたいと感じます。EWEのOB / OG諸氏には改めまして御礼申し上げます。OB会という立場で企業側の人材と学生をつなげてくださっていることにより、学生の就職活動が相当楽になっていると感じております。今後とも引き続き御指導・御鞭撻の程宜しくお願い致します。

2017年度基幹理工学部情報理工学科・情報通信学科と 基幹理工学研究科情報理工・情報通信専攻在籍学生の進路状況

情報理工学科・情報通信学科／情報理工・情報通信専攻 就職指導担当 教授
田中 良明、高畑 文雄、山名 早人



情報通信学科は2018年3月に初めて卒業生を出しますが、就職に関しては情報理工学科・情報通信学科の区別なく扱いました。2017年度に卒業論文着手を認められて研究室に在籍し卒業見込みの学部学生は180名（国際コース5名を含む）、うち情報理工・情報通信専攻修士課程への進学予定者110名（うち推薦101名、試験9名）、他大学・他学部進学予定者6名、就職予定者60名です。本専攻への進学率は61%となり、昨年度の61%と同じ比率となりました。学生は景気がよいうちに就職しようとするため大学院進学率は漸減傾向にありましたが、歯止めが掛かった形です。しかし、女子の大学院進学は減少傾向にあります。



修士課程については、修了見込みの大学院生は113名（国際コース21名を含む）、うち本専攻博士課程への進学予定者12名、他大学博士課程進学予定者0名、就職予定者89名、帰国予定10名です。



就職について本稿執筆者の3名が学生と企業の橋渡しを担当しました。就職環境を振り返ると、経団連の就職活動方針

において、会社説明会開始時期が前年度と同じ3月1日に据え置かれ、選考開始時期も前年度と同じ6月1日に据え置かれました。6月1日の選考開始とは、事務的に内々定の決定をすることであり、事実上の選考はそれ以前に行われます。早い会社では3月から、遅い会社でも4月にはリクルータ等による選考が始まります。更に、3月1日の会社説明会以前のインターンシップも事実上の就職活動の場になっています。経団連は、選考活動につながるような1日限りのプログラ

ムは実施しないとしていますが、その一方で従来5日以上としてきた制限を撤廃しました。これにより、事実上の選考が行われる1日限りのインターンシップが増えています。また例年と変わらず、経団連非加盟の企業における説明会や選考は2016年中から活発であり、経団連加盟企業とあわせて幅広くアプローチした学生も多くいました。

現在一般的には求人難の売り手市場ですが、電気電子情報通信分野においては若干求職難の買い手市場でした。その理由は、経営不振の東芝、労働関係法令違反で一時求人票受付禁止となった三菱電機とパナソニックがいずれも大会社で、当該分野の労働市場に与える影響が大きかったからです。就職先として、メーカを避け、キャリアを志望する学生が増えました。その結果、電気通信事業者への就職は大変厳しい競争になりました。

内定率は例年と遜色のないものとなりました。修士修了2名以上の就職先となる見込みの組織は、NHK、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモ、キャノン、KDDI、サイバーエージェント、日本IBM、日本電気、野村総合研究所、パナソニック、日立製作所、富士通です。また学部卒2名以上の就職先となる見込みの企業は、NTTコムウェア、KDDI、富士通です。昨年度に引き続き情報通信関係や電機メーカーを中心に様々な業種へと人材を送り出すことができたといえます。

就職する学生諸君には、活動した経験を糧とし、4月からの活躍を期待しています。またその活躍が結果として、後輩への就職機会に繋がることを願っています。企業の皆様には、例年と同様の採用をいただいたことに厚く御礼申し上げますとともに、来年度も引き続き積極的な採用をしていただくことをお願い申し上げます。最後にEWEには、例年と同様に複数企業のOB／OGを招いての「EWE先輩と学生との交流会」を開催していただきました。学生の評判は大変よく、厚く御礼申し上げます。

2017年度電子物理システム学科・専攻、 ナノ理工学専攻(電子物理システム系)の就職活動報告

電子物理システム学科／電子物理システム学専攻 教授 柳澤 政生



2007年4月に理工学術院が再編され、電子光システム学科(現、電子物理システム学科)が誕生しました。今年度は2012年に入学した第6期生が修士2年となり、19名の学部生とともに就職活動を行いました(修士・学部合計で74名)。当学科・専攻として6回目の本格的な就職活動になります。当学科・専攻も多くの企業の方々に知っていただいたようで、300社以上から多くの求人票が送られて来るようになりました。2018年卒の学生が入社する具体的な企業名と入社者数を次ページに示します。これで6年間で434名の学生が184社に入社することになります。

今年度の就職活動は、いくつかの企業が大きくスケジュールを前倒しましたが、大きな混乱もなく、当学科・専攻の就職活動はとても良好に実施されたと考えています。ゴールデンウィーク明けには8割がたの学生が就職活動を一段落させていました。学生の就職活動をご支援、ご協力いただいた連絡事務室の山崎さんに感謝します。

現在の就職活動に関連して動き出している事項を書かせていただきます。「履修履歴」の活用による面接(履修履歴面接)の実施です。「リシュ面」とも言われているようです。2017年新卒採用より経団連「採用選考に関する指針」に盛り込まれています。面接の最初の5分程度、大学の成績表(履修履歴)を見ながら、学業における考え(選択科目において、その科目を選択した理由等)や行動について質問する手法です。成績の良し悪しだけを見るのではなく、学生の行動を多面的に知ることが目的だと報道されています。従来の面接では学生の得意なこと(サークル活動、アルバイト等)しか聞けなかったのですが、いやでもしなければいけないことや得意でないこと等(学業の履修)といった実際の仕事と同じようにモチベーションが低い作業に対する対応を見ることが目的です。成績表を見ながら質問されますので、学生は「嘘」をつくことが非常に困難になります。

リシュ面をサポートする組織に大学成績センターがあります。同センターは、全国各大学で開講中の理工系基礎科目について、名称に左右されずに約50にグループ分けした

データベースを作成しています。現在でも3分の1の学生が成績をセンターに提供しているそうです。大手企業は就職活動中の学生の学部・学科や受講科目名に振り回されず、自社ニーズに適した素養のある学生を選べるというメリットがあります。人材不足感が強い電機・機械や、ビッグデータ（大量データ）活用の採用で効果を発揮しそうだと報道されています。このデータベースを活用して、リシュ面を行えば、楽勝科目だけを履修してきたとか、最低限の努力で単位を取得してきたといった学生があぶり出される可能性が高いです。このような学生は不合格になる確率が高くなります。学生は日頃より、慎重に履修科目を選び、良い成績を修めるようにならなければいけません。

就職する学生諸君は4月から各職場で、大学生活で苦労して習得した知識、経験、能力を十分に発揮して、活躍されることを期待しています。就職活動を通じて、卒業生のありがたさがわかったことと思います。卒業・修了後はEWEの正会員として、EWEの活動に協力し、後輩を導くことは必須だと認識してほしいと思います。

企業の皆様には、学生へのご対応、ならびに、私との濃密な情報交換や相談にご協力いただいたことに感謝申し上げますとともに、来年度もお付き合いの程、よろしくお願い申し上げます。

就職活動において、本学のOB／OGのサポートはきわめて有効に機能していると実感しています。最後になりましたが、EWEの「企業見学会」、「EWE先輩と学生との交流会」など種々の活動に深く感謝申し上げます。

2名以上が入社した企業

キヤノン	4	ソフトバンク	3	パナソニック	2
ソニー	4	KDDI	2	新日鐵住金	2
日立製作所	4	NTTデータ	2	富士通	2
オリンパス	3	トヨタ自動車	2	三菱電機	2

1名以上が入社した企業等：

JFEスチール、JR東海、NTTコミュニケーションズ、PwC、SCSK、U-NEXT、エジソン、キヤノンマーケティングジャパン、ジェイテクト、シャープ、ダイテック、デンソー、ニチコン、パイオニア、ファナック、マツダ、みずほ証券、ゆうちょ銀行、伊藤忠テクノソリューションズ、河内屋、関西電力、経済産業省、大日本印刷、大和証券、東急建設、東北電力、豊田自動織機、日本IBM、日本音響エンジニアリング、日本経済新聞社、日本電気、日立ハイテク、日本放送協会（NHK）、日本ユニシス、日立金属、本田技研工業、三井金属鉱業、村田製作所、明治、横河レンタ・リース、楽天、起業

2017年度 就職先一覧

企業名	人数	企業名	人数
【ア 行】		キーエンス	3
IHI	1	キッコーマン	1
IMS Japan	1	キヤノン	9
アクロクエストテクノロジー	1	キヤノン電子	1
旭化成EICソリューションズ	1	キヤノンマーケティングジャパン	1
旭化成ファーマ	1	クボタシステムズ	1
旭硝子	2	クロスキャット	1
朝日新聞社	1	経済産業省	1
栃木県足利市役所	1	KDDI	11
アストラゼネカ	1	厚生労働省	1
Apple Inc.	1	国土交通省	1
アドービジネスコンサルタント	1	小松製作所	1
アンリツ	1		
アンリツインフィビス	1	【サ 行】	
いすゞ自動車	1	サーモフィッシャーサイエンティフィック	1
伊藤忠テクノソリューションズ	1	Cygames	1
エクサ	1	サイバーエージェント	1
SCSK	2	三機工業	1
NECソリューションイノベータ	1	産業技術総合研究所	2
NTTコミュニケーションズ	9	産業経済新聞社	1
NTTコムウェア	1	GMOグローバルサイン	1
NTTデータ	7	ジーニー	1
NTTドコモ	4	JFEスチール	1
ARアドバンスドテクノロジー	1	ジェイテクト	1
エムスリー	1	システムインテグレータ	1
オービック	1	資生堂	1
小田急電鉄	1	清水建設	1
オリンパス	4	シャープ	2
		ジャステック	1
【カ 行】		ジャニーズ事務所	1
花王	1	新日鐵住金	3
カプコン	2	スカイマーク	1
カヤック	1	住友商事	1
河内屋	1	ZTEジャパン	1
関西電力	3	セブン&アイ・ネットメディア	1

企業名	人数
全日本空輸	1
ソニー	7
ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ	1
ソニーミュージック	1
ソフトバンク	3
損保ジャパン日本興亜	1
【タ 行】	
大広	1
ダイテック	1
大都技研	1
大日本印刷	1
中部電力	1
TIS	1
DeNA	1
帝人	1
DYM	1
テクバン	1
デロイトトーマツコンサルティング	1
テルモ	1
テレビ朝日	2
電源開発	2
デンソー	3
電通デジタル	1
東映	1
東海旅客鉄道	2
東急建設	1
東京エレクトロン	1
東京海上日動火災保険	1
東京ガス	4
東京ガス都市開発	1
東京計器	1
東京地下鉄	1
東京電力パワーグリッド	2
東京電力ホールディングス	3
東京都職員	1
東芝三菱電気産業システム	1
東武鉄道	1

企業名	人数
東北電力	2
凸版印刷	1
トヨタ自動識機	1
トヨタ自動車	4
ドリームアーツ	1
【ナ 行】	
ニコン	1
ニチコン	1
日建設計	1
日産自動車	1
日本IBM	4
日本IBMシステムズ・エンジニアリング	1
日本経済新聞社	1
日本たばこ産業	1
日本電気	5
日本電信電話	1
日本入試センター	1
日本ビューレット・パッカード	1
日本放送協会	11
日本ユニシス	1
任天堂	1
農中情報システム	1
信毅	1
野村総合研究所	6
【ハ 行】	
パークレイズ証券	1
パイオニア	1
博報堂	1
パナソニック	5
VALUENEX	1
バンダイナムコスタジオ	1
PwCコンサルティング	3
東日本電信電話	3
東日本旅客鉄道	2
日立金属	1
日立国際電気	1

企業名	人数
日立製作所	6
日立ハイテクノロジー	2
ファナック	1
富士ソフト	1
富士通	12
富士通アドバンストエンジニアリング	1
富士通エフサス	1
富士通バンキングソリューションズ	1
富士電機	1
古河電気工業	1
北陸電力	1
ポケモン	1
北海道電力	1
本田技研工業	4
【マ 行】	
マツダ	1
松戸市役所	1
みずほ証券	1
みずほ情報総研	1
みずほフィナンシャルグループ	1
三井金属鉱業	1
三菱電機	3
Minoriソリューションズ	1
村田製作所	1
明治	2
メタテクノ	1

企業名	人数
メディサイエンスプランニング	2
モーガン・スタンレー	1
モスフードサービス	1
モバイルファクトリー	1
【ヤ 行】	
ヤフー	2
大和証券	1
ゆうちょ銀行	1
U-NEXT	1
横河電機	1
横河レンタ・リース	1
【ラ 行】	
LINE	1
楽天	1
LIXIL	1
リクルートコミュニケーションズ	1
リコー	2
リコー ITソリューションズ	1
ルネサスエレクトロニクス	1
ローランド・ベルガー	1
【ワ 行】	
YKK AP	1
WOWOW	1
早稲田大学	2

《海外企業》

企業名	人数
IBM China	1
アフガニスタン政府	1
INDUSTRIAL CENTRE OF INNOVATION NANOTECHNOLOGY, SIRIM Berhad.	1

企業名	人数
ケニア政府	1
CHINA EVERBRIGHT BANK	1
Huawei	1
Beijing Automatic Research Institute	1

2017年度評議員委嘱状況

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
1947	専門部 工科電気通信科	黒澤 龍平	1962	第1理工学部 電気工学科	嘉山 長興
1947	理工学部 電気通信学科	赤松 正也	1962	第1理工学部 電気通信学科	竹村 裕夫
1949	専門部 工科電気科	桑野 繁夫	1963	第1理工学部 電気工学科	小松雄一郎
1949	専門部 工科電気通信科	進藤 純男	1963	第1理工学部 電気通信学科	田中 良一
1951	理工学部 電気工学科	野原 和夫	1964	第1理工学部 電気工学科	田中博一郎
1951	理工学部 電気通信学科	南 敏	1964	第1理工学部 電気工学科	河野 通直
1951	第1理工学部 電気通信学科	小原 啓義	1964	第1理工学部 電気通信学科	瀧本 幸男
1952	第1理工学部 電気工学科	依田 文吉	1964	第2理工学部 電気工学科電気工学専修	福井 常忠
1952	第1理工学部 電気通信学科	中山 元泰	1965	第1理工学部 電気工学科	小泉金之助
1953	第1理工学部 電気通信学科	加藤 利雄	1965	第1理工学部 電気通信学科	本間 勝
1954	第1理工学部 電気工学科	榊原 精一	1966	第1理工学部 電気工学科	小林 昭夫
1954	第1理工学部 電気通信学科	田尻 利重	1966	第1理工学部 電気通信学科	杉原 鉄夫
1954	第2理工学部 電気工学科	入江 宣夫	1967	第1理工学部 電気工学科	井上 哲郎
1955	第1理工学部 電気工学科	龍田 幹雄	1967	第1理工学部 電気通信学科	大島 英男
1955	第2理工学部 電気工学科	宮崎 滋水	1968	第1理工学部 電気通信学科	高垣 孝
1956	第1理工学部 電気通信学科	桑原 守二	1969	理工学部 電気工学科	橋本 栄二
1956	第2理工学部 電気工学科	中野 光倫	1969	理工学部 電気通信学科	佐藤 祐介
1957	第1理工学部 電気通信学科	幕田 健	1970	理工学部 電気工学科	佐藤 増雄
1957	第2理工学部 電気工学科	土屋 篤	1971	理工学部 電気工学科	草間 晴夫
1957	工業高等学校 電気科	堀内 恒憲	1971	理工学部 電気通信学科	町山 晃
1958	第1理工学部 電気工学科	野口 尚宏	1972	理工学部 電気工学科	木村 裕恒
1958	第1理工学部 電気通信学科	厚東 健彦	1972	理工学部 電気通信学科	小川 豊
1958	第2理工学部 電気工学科	深澤 眞一	1973	理工学部 電気工学科	斎藤 涼夫
1958	工業高等学校 電気科	中川 正則	1973	理工学部 電気通信学科	武藤 信夫
1959	第1理工学部 電気工学科	浅村 皓	1974	理工学部 電気工学科	島田健夫三
1959	第1理工学部 電気通信学科	駒田 和民	1974	理工学部 電気通信学科	花澤 隆
1959	第2理工学部 電気工学科電気工学専修	中村 仁士	1975	理工学部 電気工学科	佐藤 勝雄
1960	第1理工学部 電気通信学科	下村 尚久	1975	理工学部 電気通信学科	酒井 富夫
1961	第1理工学部 電気工学科	倉田 哲也	1976	理工学部 電気工学科	中谷 義昭
1961	第1理工学部 電気通信学科	長谷川豊明	1976	理工学部 電気通信学科	宇高 勝之

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
1978	理工学部 電子通信学科	北野 昌宏	1999	理工学部 電気電子情報工学科	勝田 喬雄
1980	理工学部 電気工学科	笠原 博徳	2000	理工学部 電気電子情報工学科	田中 毅
1980	理工学部 電子通信学科	宇田川重雄	2000	理工学部 電子・情報通信学科	宮澤 敏記
1980	理工学部 電子通信学科	滝川好比郎	2000	理工学部 情報学科	宮島 崇浩
1981	理工学部 電子通信学科	森村 実	2001	理工学部 電気電子情報工学科	伊藤 俊秀
1982	理工学部 電気工学科	齋藤 則生	2002	理工学部 電気電子情報工学科	堀井 洋
1983	理工学部 電気工学科	小林 正和	2003	理工学部 情報学科	森 紘一郎
1983	理工学部 電子通信学科	秋葉 浩	2004	理工学部 電気電子情報工学科	深澤 知憲
1984	理工学部 電気工学科	宮部 潤	2004	理工学部 情報学科	平手 勇宇
1984	理工学部 電子通信学科	小沼 和夫	2005	理工学部 電気電子情報工学科	菊間 俊明
1985	理工学部 電気工学科	菅野 和男	2008	理工学部 電気・情報生命工学科	夏井 正嗣
1985	理工学部 電気工学科	寺本 哲	2008	理工学部 電気・情報生命工学科	彦坂 早紀
1985	理工学部 電子通信学科	中村 寛	2010	大学院先進理工学部 電気・情報生命専攻	上條 秀一
1986	大学院電気工学専攻	原 洋	2010	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	安川 要平
1987	理工学部 電気工学科	丸山 和茂	2011	先進理工学部 電気・情報生命工学科	廣瀬 雄一
1988	理工学部 電気工学科	工藤 真	2011	基幹理工学部 電子光システム学科	藪 翔平
1989	理工学部 電気工学科	林 泰弘	2012	基幹理工学部 情報理工学科	赤坂 宏行
1989	理工学部 電子通信学科	河野 志行	2012	基幹理工学部 電子光システム学科	松下明日香
1990	理工学部 電気工学科	田中 貞嗣	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	相場 貴之
1992	理工学部 電気工学科	江口 弘	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	薄井 綾香
1993	理工学部 電子通信学科	井上 雅広	2013	基幹理工学部 情報理工学科	高橋 翔平
1995	理工学部 電気工学科	豊島 成彦	2013	基幹理工学部 電子光システム学科	橋口 誠広
1995	理工学部 電気工学科	春山 智	2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科	川和田達也
1995	理工学部 電子通信学科	山田 智紀	2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科	河へーみん
1996	理工学部 電気工学科	吉澤 正克	2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科	高松 克明
1996	理工学部 情報学科	村山 和宏	2014	基幹理工学部 情報理工学科	丸子 倫己
1997	理工学部 電気電子情報工学科	佐藤 和幸	2014	基幹理工学部 電子光システム学科	秋山 隼哉
1997	理工学部 電子通信学科	菊地 俊介	2014	基幹理工学部 電子光システム学科	高野 正範
1997	理工学部 情報学科	笈 一彦	2015	先進理工学部 電気・情報生命工学科	高橋 康太
1998	理工学部 電気電子情報工学科	大井 祐子	2015	基幹理工学部 情報理工学科	無州 祐也
1998	理工学部 電子・情報通信学科	茂垣 武文	2015	基幹理工学部 電子光システム学科	和泉 聡志

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
2015	基幹理工学部 電子光システム学科	小出 隆太	2017	基幹理工学部 電子物理システム学科	梶家 美貴
2016	先進理工学部 電気・情報生命工学科	永川 恭州	2018	先進理工学部 電気・情報生命工学科	富田 康平
2016	基幹理工学部 情報理工学科	飯島 直輝	2018	先進理工学部 電気・情報生命工学科	田村 好
2016	基幹理工学部 電子物理システム学科	遠藤 清	2018	基幹理工学部 情報理工学科	村田 憲俊
2016	基幹理工学部 電子物理システム学科	加藤かなみ	2018	基幹理工学部 電子物理システム学科	今西祥一郎
2017	基幹理工学部 情報理工学科	金田 健吾			

*評議員不在の学科は、募集しています。評議員を交代された場合は、事務局までお知らせください。

2017年度終身会費納入者一覧

宮地 公忠	1963 電気	小林 義行	1967 電気	真田 正	1968 電気
武内 正己	1971 電通	堀内 幹生	1959 通専修	内池 久幸	1966 電気
加藤 雅一	1972 電通	細田 彰	1966 電通	栗山 博光	1958 電気
細貝 隆志	1972 電気	伊藤 孝将	2014 電生	下川 如矢	1963 電専修
佐々部正平	1969 電通	増田 幸一	1958 電気	田中 貞嗣	1990 電気
北岡 和憲	1982 電通	村上 圭司	1974 電通	小林 正典	2004 情報
鈴木 恵三	1997 電気	秋元 正祥	2007 C S	中村 紀翔	2014 応数
豊田 悟史	2014 電生	白谷あゆみ	2014 電光	須藤 孝幸	1974 電気
小川 哲司	2000 電気	岩井 俊達	1961 電気	川西 哲也	1993 京大
山岡 重信	1963 電気	坪田 喜治	2016 電生	高田 友治	1956 電気
水上 康生	1994 電気	金子 公一	1969 電気	加藤 真吾	1998 電気
澤野 正邦	1969 電通	坂田 信夫	1974 電通	森下 雄一	2010 電生
竹林 晃	1977 電気	横山 和正	2002 電通		

◇賛助会員

大平 英貴 2006 電通 手塚 典雄 1951 電気

◇ご寄付ありがとうございました

宮地 公忠 1963 電気 佐々部正平 1969 電通

◇お悔やみ申し上げます。(2017年度にお知らせいただいた訃報を掲載しております)

お名前	卒年	学科	ご逝去日	お名前	卒年	学科	ご逝去日
小原 明	1950	電通	2005年2月	四方 俊夫	1941	電気	2016年8月
高橋 憲司	1968	電気	2003年3月27日	井出 富雄	1949	専工通	2012年
磯野 共秋	1965	電通	2016年10月18日	白井紀三夫	1958	電気	2016年12月
高村 芳雄	1958	電通	2015年5月11日	多田紀一郎	1965	電通	2016年3月
金平 隆	1956	電気	2016年6月18日	宮沢 治平	1944	電通	2017年3月15日
松丘猪之亮	1958	電気	2016年11月	林 繁	1955	電気	2016年10月15日
山縣 武夫	1956	電気	2015年11月30日	竹村 雅尚	1958	電気	2015年11月
草野 三郎	1945	専工電	2012年	永尾 敏男	1949	専工通	2016年9日16日
三橋 正吾	1950	電通	2000年	石川 栄造	1951	電通	2017年1月9日
本尾 義敬	1951	電通	2017年4月5日	大島厚太郎	1951	電通	2012年6月9日
堀家 泰	1951	電通	2017年3月9日	野尻 次郎	1945	専工電	2016年9月
若槻 俊男	1952	電気	2011年	村上 功	1941	電気	2016年10月
松笠 功	1951	電通	2015年10月9日	小藺 嘉明	1948	専工電	2016年
森田 憲二	1970	電気	2016年5月26日	長岡 建彦	1958	電気	2016年
佐谷 宏	1964	電通	不明	寺本 三雄	1955	電気	2014年
大川 一雄	1946	電通	2015年5月	渡会 猛	1952	工電	2014年5月
尾花 順	1942	工電	2016年5月	肥田 実	1942	専工電	2004年5月4日
田名部誠一	1966	電通	2014年7月25日	宮北 孝敬	1957	電通	2017年1月10日
中村 政義	1948	専工電	2016年12年6日	田中 實	1947	電気	2016年8月10日
小原 達	1956	電気	2016年4月5日	宇都宮 崇	1964	電専修	2016年
多々良 宏	1943	電気	2015年	小池 弘	1953	電気	2016年10月9日
吉川 功	1961	電気	2015年11月16日	加倉 博臣	1949	電気	2014年4月12日
両角 博	1954	電通	2016年12月23日	西堀 郷富	1948	電気	2014年
正示 明	1960	電気	2016年10月4日	坂野 希	1952	電気	不明
小山 敦	1954	電気	2016年4月24日	迫田 国憲	1939	電気	2008年

お名前	卒年	学科	ご逝去日	お名前	卒年	学科	ご逝去日
田所 康	1952	電気	2014年	田口 敏行	1961	電通	2015年
池田 宗吉	1949	電気	2016年	大野 徹	1955	電通	不明
小見川 宏	1964	電通	不明	佐野 詔一	1967	電気	2016年
鈴木 昭	1951	電気	2017年3月	富田 真吉	1957	電通	2015年
古川 忠	1949	専電通	2010年	田村 義明	1959	電専修	2017年2月21日
古畑 芳男	1955	電気修	2013年10月20日	坂本 元	1963	通専修	2016年6月6日
大西 幸夫	1955	電気	2016年9月	佐々木鉄弥	1936	電気	不明
関根儀七郎	1941	電気	2015年10月7日	広田 覧男	1953	電気	不明
関本 清	1957	電気	2016年2月	市野 隆英	1959	電気	2017年1月16日
比留間正博	1956	電通	2016年9月3日	尾沢 辰男	1951	電気	2017年4月30日
中屋 重和	1949	電気	2011年	堀 輝男	1964	通専修	2012年3月
前田 勝也	1948	専電通	2010年10月7日	安元誠四郎	1954	電気	2017年6月28日
須賀 孝之	1952	電気	不明	竹田 連	1974	電気	2016年7月21日
吉野 利之	1947	電気	2003年4月21日	小松崎太郎	1954	電専修	2010年
小沢 大成	1953	電通	2016年7月7日	米原 隆夫	1977	電通	2015年12月16日
鈴木 春夫	1963	電気	2016年8月	清水 司	1948	電通	2017年10月21日
根木 誠	1956	電気	2017年3月29日	福島 敏高	1968	電通	2017年10月9日
久保田 勲	1964	通専修	不明	鈴木 健司	1956	電気	2016年2月9日
渡辺 顕一	1950	電気	2017年2月	大村長太郎	1949	電気	2017年11月12日
片山 順喜	1959	電通	2016年7月	高山 潤一	1957	電通	2017年7月13日
中川 敬介	1958	電気	2016年12月22日	児嶋隆一郎	1966	電気	2017年11月8日
壽崎 秀夫	1956	電通	2016年7月8日	鈴木 晋一	1981	電通	2017年12月
木村 彬男	1957	電気	2009年	太田 千里	1955	電気	2017年5月
糟谷 敬二	1968	電通	2015年				

表紙デザイン

2017年11月10日に行われた電気・情報工学科 林泰弘教授のご講演「ICTによるエネルギーリソースアグリゲーションの新時代へ」よりご提供いただきました。「エネルギーリソースアグリゲーションの研究開発の連携」の図です。

編集後記

早稲田大学を卒業した後、社会人としてすでに21年が経ちました。学生時代、入学当初はサークル活動やアルバイト等を通じて友人の輪を広げつつ学業に取り組み、後半は研究室で研究活動に注力していました。当時得られた友人とはいまだに交流があり、自分としては社会人になってから得られた友人よりも気楽に付き合うことができ、非常に貴重な財産になっていると感じています。

社会人になってからも早々にリクルータとなり、年に数回は大学を訪れて先生方や学生さんとお話をさせていただいていました。ただ、恥ずかしながらEWEに関しては就職活動を支援する身として関連する事柄は認識していましたが、EWE理事を拝命してからはOB・OGの善意にもとづいて学生の方々に対してさまざまな支援が行われていることを知りました。学生の皆さんにはEWEの取り組みを是非積極的に活用頂ければと思っています。

この会報は、大学・企業の会員の皆様方に大学に関する情報を発信するために発行されています。その内容には懐かしいこともあれば、新たなこともあるかと思しますので、是非一度ご覧いただければと考えております。また、大学を卒業されてから多少疎遠になっている方々もいらっしゃると思います。会員の皆様方には改めてこの機に大学のことを思い出し、EWEに関わる皆様方のご発展を意識していただければと願っております。

(編集担当理事：山本祐史)

早稲田電気工学会会報

第 59 号

2018年 3月24日 発行

発行所 〒169-8555

東京都新宿区大久保 3 - 4 - 1

早稲田大学西早稲田キャンパス内

早稲田電気工学会 事務局

直通電話：03-3232-9768

(FAX兼用)

郵便振替口座 00140-4-23500

URL <http://www.ewe.or.jp/>

E-mail jimukyoku@ewe.or.jp

©早稲田電気工学会 2018